

メルコスールの動向及びマナウス・フリー・ゾーンの経緯と現状

メルコスールの動向及び  
マナウス・フリー・ゾーンの経緯と現状

国際協力事業団サン・パウロ事務所  
農業情報室

S	P
J	R
93-1	



JICA LIBRARY



1111207(5)

メルコスールの動向及び  
マナウス・フリー・ゾーンの経緯と現状

国際協力事業団サン・パウロ事務所  
農 業 情 報 室

国際協力事業団

25910



目 次

1	メルコスール（南部共同市場）設立の経緯と現状	1
2	関連条約・協定	5
2・1	アスンシオン条約	5
2・2	その他の条約及び協定	9
3	協定発効までのスケジュール	11
4	メルコスール諸国の概況	22
4・1	概況	22
4・2	アルゼンチン	23
4・3	ウルグァイ	30
4・4	パラグァイ	34
4・5	ブラジル	42
4・6	メルコスールの農業生産状況	56
5	メルコスールのインフラ・ストラクチャー構想	69
6	メルコスールにおける主要農産物の生産力と競争力	73
7	メルコスールの開設に伴う問題点に対する各国政府関係者の意見	86
7・1	ブラジル	86
7・2	ウルグァイ	92
7・3	パラグァイ	93
8	マナウス・フリー・ゾーンの経緯と現状	96
8・1	設立の経緯	96
8・2	現状	99
	イ) 一般概況	99
	ロ) 経済活動の状況	100
8・3	関連法規	110
8・4	マナウス・フリー・ゾーンのインセンティブ	113
8・5	メルコスールの開設に伴う影響	114

# 1 MERCOSUL (南部共同市場) 設立の経緯と現状

南米大陸の南部4ヶ国による共同市場MERCOSULの発足は、91年3月26日に4ヶ国の大統領によって署名されたアスンシオン条約にもとづくものであるが、その母体は、1985年に遡っており、当時、アルゼンチンとブラジル両国大統領が2国間協定の話し合いを行ったのを最初としている。

1985年11月30日当時の両国大統領（ブラジル側のジョゼ・サルネイ、アルゼンチン側ラウル・アルフォンシン）は、イグアスー市（アルゼンチン領土）とフォス・デ・イグアスー市（ブラジル領土）を結ぶ橋梁（タンクレード・ネーベス橋）の開設式に出席したのを機会に会合したが、その際、最初の市場統合の話し合いが行われており、その意向を表明する共同声明書が発表されている。同共同声明では、ラテン・アメリカが市場を拡大し他の世界市場との競争力を強め、ラテン・アメリカの持つ弱点を軽減することを期待し、ラテン・アメリカの協同と統合のため、アルゼンチン、ブラジル両国がそのイニシアチブをとる必要が述べられている。

イグアスー声明に盛り込まれた両国大統領の意向は、翌86年7月20日にブエノス・アイレスで開催された会議において具体的な形として発表され、共同市場への一步を踏み出すことになった。すなわち同日付で署名されたアルゼンチン—ブラジル統合のための会議録により、従来採用されてきたモデルと異なった新しい情勢に則した成長を促進することを基本目標とした両国の経済統合プログラム（P I C E）が設定された。

漸進、適応、均衡を原則としたこのプログラムは、技術の向上、第3国に比し優先的取扱いを通じた2国間経済の交流の強化、これらを通じ両国々民の所得水準と生産水準の向上が最終目的としてうたわれている。

この目的を達成する方法としてそれぞれ異なった部門—資本財、小麦、食糧供給、商業の拡大、2国間企業、金融、投資基金、エネルギー、バイオテクノロジー、経済研究、核問題、情報交換と相互協力、航空協定、製鉄、陸上輸送、海上輸送、通信、文化、自動車工業、食品工業等といったそれぞれ異なった分野における統合の話し合いが行われた。

その後、86年12月10日に署名されたアルゼンチン—ブラジル友好協定及び88年11月29日付アルゼンチン・ブラジル統合協同及び開発協定は、先の経済統合プログラム（P I C E）を補完し、更にこれを推進するためのメカニズムを設置したものである。

上記友好協定においては両国政府は、経済成長こそは社会平等の権利、民主主義の確立及び平和のための必須条件であるとの認識のもとに地域の統合と協力のために新たな方向が示された。

このようなアルゼンチン・ブラジル両国間の市場統合への動きにウルグアイ国が参加したのは、86年4月6日に行われたアルゼンチン・ブラジル及びウルグアイ国大統領による3者会談を契機としており、この時始めてウルグアイを含む経済統合の議案が討議された。88年11月30日には、ブエノス・アイレス市において第2回目の3者会談が持たれている。

1988年の協定は、翌89年に両国の国会において批准されたが、この時点において経済統合の動きが単に政治的意向に止まらず経済、社会の全般を含む現実の問題として検討されるようになったことは、特筆されるべきこと、いわれている。

アルゼンチンのアルフォンシン大統領とブラジルのサルネイ大統領のあとを受けて大統領に就任したカルロス・メネン・アルゼンチン大統領とフェルナンド・コッロル・ブラジル大統領は、1990年3月16日、ブラジル大統領就任の機会に、前政権より引継がれた統合プログラムを批准し、統合協定実行委員会を設置した。

1990年7月には、コッロル・ブラジル大統領のアルゼンチン訪問に際して初のコッロル・メネン会談が行われたが、この際両国大統領は、昨今の国際情勢について意見の交換を行ったあと世界的に経済ブロックの形成がすすめられている現情勢下において両国の統合を図ることは、緊急の課題であるとの結論に達した。

1990年8月6日コッロル大統領とメネン大統領によって署名されたブエノス・アイレス会議では、アルゼンチンとブラジルによる共同市場の結成が再確認され、ここで始めてその目標を1994年12月31日とすることが定められた。この会議では、共同市場開設の期限を明確としたほか、最近の世界情勢に照らしとくに大経済ブロックの出現、国際経済の全体化の前に統合プロセスを早急に実現する必要が痛感され、新しい方向が設定されている。その一つの措置として両国大統領が定めた目的と期限を達成するため、これを推進する共同市場グループが設置されることになった。

1990年8月21日と22日にリオ・デ・ジャネイロ市で開催されたブラジル代表国とアルゼンチン代表国の会議では、90年8月6日に設定された方針に対する共同提案が行われている。アルゼンチンとブラジルによる最初のグループ会議は、90年9月ブエノス・アイレス市で開催され、リオの会議で行われた両国代表国による共同提案の分析が行われた結果、共同市場においては、経済政策の統轄と調整が最優先事項として取扱われるべきであるとの結論が出されている。

同グループ会議においては、マクロ経済及び部門別経済の分析を行う作業グループとして、次のサブ・グループが結成された。

第 1 グループ	通商問題
第 2 〃	関税問題
第 3 〃	技術基準
第 4 〃	通商に関連する税務金融政策
第 5 〃	陸上輸送
第 6 〃	海上輸送
第 7 〃	工業政策及び技術
第 8 〃	農業政策
第 9 〃	エネルギー政策
第 10 〃	マクロ経済政策の統轄

1990年9月5日及び6日に開催された両国代表団会議では、オブザーバーとして出席したウルグアイとパラグアイ国代表に対し、アルゼンチン—ブラジル統合計画の進捗状況が説明された。ウルグアイ及びパラグアイ両国代表団は、この際本国政府が本共同市場計画に参加したい意向があることを正式に通達、これを契機として4者協定を作成する方向に向った。

1990年10月22日及び23日には、同じくオブザーバーとしてのウルグアイ及びパラグアイ代表国の参加のもとにリオ・デ・ジャネイロ市においてブラジル—アルゼンチン共同市場グループ会議が開催され、サブ・グループ技術部門の提案事項に対する分析が行われた。



この会議では農業政策を担当する第8グループも農業問題に対する両国代表の討議の結果を発表し、両国です、められる自由化経済の中、過去のように自給態勢を保つための資金が不足する情勢下での第3国への対応策として、両国の農業政策を調整し関連を求める必要性が強調されている。

その後、90年12月13日及び14日にブエノス・アイレス市で行われたアルゼンチン・ブラジル共同市場会議では、最初のブエノス・アイレス会議の署名が行われた90年7月6日以降に行った対策についての評価が行われている。

ウルグアイ及びパラグアイ国代表団の出席のもとに共同市場グループは、アルゼンチン・ブラジル間の経済補完協定を提案し、後日90年12月20日に調印が行われた。

1991年3月26日、アスンシオン市において4国大統領（カルロス・メネン・アルゼンチン大統領、フェルナンド・コロール・ブラジル大統領、ルイス・アルベルト・ラカーリエ・ウルグアイ大統領、及びアンドレス・ロドリゲス・パラグアイ大統領）が会合し、4国による共同市場の設置を目的としたアスンシオン条約が最終的に調印されることとなった。同条約は後日各メンバー国の議会において批准され各々の国の国内法と同等の取扱いを受けている。

共同市場の形成は、経済国の拡大を意味するものであり、協定4ヶ国における財と人の自由な交流を保証するものでもある。同条約では、その具体的な目標を1994年12月31日とし、この日に向けて段階的に関税を撤廃する一方、圏外市場に対しては、統一関税を設けることを基本とし共同市場開設の日までに、メンバー国間に存在する不均衡な問題点の是正を図るための準備態勢を整えることをうたっている。

同準備期間における共同協定推進のための最高決議機関としては、各国の外務大臣及び経済大臣をメンバーとする“メルコスール審議会”を設けて各6ヶ月置きに会合を行わせ、その下部機構として“共同市場グループ（GMC）”と名付けられた機関が設置された。同機関は、各国の外務、経済、商工省及び中央銀行の代表によって構成され、各3ヶ月置きに会合し協定の進捗状況を検討すること、なっている。同GMCは、更に各専門グループを下部に置き、各分野における現状分析と問題点の対策、新しい制度の設定を行わせるシステムとし、各専門委員会は、GMCの各3ヶ月置きの会議の1月前に会合して提案事項をとりまとめGMCに提出する運びとし実施されている。

GMCの下部組織として結成されている専門グループは、先に示したブラジル・アルゼンチン間で設置された作業グループの分類のほか、第11グループとして労働雇用及び社会保障にかかわるグループが追加され、補足グループとして観光、環境及び科学技術の3分野が加えられている。

各専門グループに提案された優先事項の中、第8グループの農業政策分野のものをとりあげると、次の内容であった。

- イ) 作物の生産態勢及びアグロインダストリー部門にみられる不均衡、1国への集中傾向の調査分析
- ロ) 農作物及び家畜の衛生基準の決定、国際市場レベルに適應する品質管理
- ハ) 農牧部門の主要作物の生産状況、アグロインダストリーの現状について共同市場メンバー国間及び国際市場間における競争力の観点よりみた分析

アスンシオン条約では、各国メンバー国の立法府の参加も規定しており、これにもとづいて合同議会委員会が結成されている。なお、メルコスール事務局の本部はウルグアイ国モンテ・ビデオ市にある。

メルコスールの目的が国際市場に対する競争力の強化に置かれているところから民間部門の参加は基本的な問題とされており、各専門グループには、それぞれの分野を代表する民間部門も参加することが定められている。

1991年12月にブラジル及び1992年6月にアルゼンチンのラス・レーニャスで開催されたメルコスール審議会では、アスンシオン条約を補充する次の事項が設定された。

イ) 特別保護に関する条約

共同市場開設までの準備期間中(1994年12月31日まで)関税の段階的引下げによる輸入の増加により影響を受ける部門に対する保護のための特別措置にかゝる取り決め。

ロ) 部門別補充協定

関税の引下げによって生じるネガティブな影響を緩和するため、メンバー国の企業が相互に行う協定。

ハ) 原産地制度

共同市場としての恩恵を受けるための条件として製品の原産地を規制、これにより製品コストの最少限の比率が共同市場区域内のものであることを条件とした。

ニ) 紛争処理の制度

アスンシオン条約及びその補充制度の履行に伴って生じる問題や苦情処理システムの設定。

ホ) 2国間企業に関する制度

メルコスール内部における2国間企業に関する特別規定設定。

1992年6月27日、4ヶ国の大統領が集まって開催されたラス・レーニャス(アルゼンチン)の会議においては、メルコスール開設までの期間における基本的な事項としての各グループ毎の作業スケジュールが設定された。

## 2 関連条約、協定

### 2・1 アスンシオン条約 1991年3月26日付

アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ及びウルグアイ各共和国（以下メンバー国と呼ぶ）は、共同市場を通じて各メンバー国が持つ現在の市場を拡大することは、社会的目的を伴う経済開発プロセスを促進する上において基本的な条件であるものとする。その目的は各国が保有する資源を有効に利用し、環境を保存し、相互の交流を図り、マクロ経済政策を統轄し、各経済分野の相互補完を段階的かつフレキシブルに行うことにより、その均衡が図られるものであることを認識するものである。

更に国際間において広大な地域を統合する経済ブロックの形成が、む現情勢下において、この流れに合流することの重要性を考える場合、本統合計画は、このような国際間のすう勢に対応する適切な回答であると信じられる。

又、本条約は、1980年に締結されたモンテ・ビデオ協定の目的に従うラテン・アメリカ統合への新たな努力であると解釈されるべきものでもある。同時に各メンバー国の科学・技術開発をすゝめ、生産される財とサービスの供給を拡大するために経済の近代化を図ることは、各国民の生活条件を向上させる上において必要な事項であることを認識する。

上述の目的を達成するためには、各国相互の連結を図るため、ベースを設置することが必要であることを再確認し、次の事項を協定する。

#### 第1章 目的、基本概念及び政策

第1条：メンバー国諸国は、1994年12月31日を期して、MERCOSULと命名される共同市場を結成することを決定する。

この共同市場は、次の目的を持つものである。

商品の通商における関税及び非関税障壁の排除又は、これに相応する措置により財、サービス、生産手段の自由な通商を図る。

第3国及び他の経済ブロックに対し、共通関税及び共通貿易政策の設定。

メンバー国間の適切な競争条件を保つためマクロ経済政策及び各経済部門（外国貿易、農業、工業、税務、通貨、為替、資本市場、サービス、税関、運輸、通信等）の統合を図る。統合プロセスを強化するため、関連分野における各法規の調整を図ることをメンバー国諸国は、確約する。

第2条：本共同市場は、メンバー国内の権利と義務の上に立つ相互主義を基礎として設定されるものである。

第3条：本協定発効の日より1994年12月31日までの準備期間中、各メンバー国は、共同市場の設置をすゝめるため、原産地にかゝわる一般規定、紛争調定システム及び安全保障条項を採用する。これらの内容は、本協定に添付される。

第4条：第3国との通商においてメンバー国諸国は、平等の条件が保証される。このためメンバー国各国は、相手国政府の補助、ダンピング、その他現実的でない保護のもとにある輸入を

阻止するため、それぞれの国の国内法を適用する。同時にメンバー国諸国は、通商上の競争にかかわる一般規定を設定するためそれぞれの国内政策を統合する。

第5条：1994年12月31日までの暫定期間中、共同市場設置のためにすゝめられる政策は、次の通りである。

イ) 段階的貿易自由化プログラム：メンバー国相互に同様の影響を及ぼす関税外障壁の撤廃と平行した段階的関税の引下げ、関税率は、1994年12月31日に0となる方向ですゝめる。

ロ) 前項に示した関税の段階的引下げと関税外障壁の撤廃プログラムに合わせて行われるマクロ経済政策の統轄。

ハ) メンバー国諸国の対外競争力を強めるため、共通対外関税の設定。

ニ) 生産手段の利用をすゝめ、効果的生産規模に達することを目的とした部門別協定の実施。

第6条：メンバー国諸国は、バラグアイ国及びウルグアイ国が別添の貿易自由化プログラムにおいて予定された計画と異ったりズムですゝむことを認める。

第7条：租税、公定料金、その他の国内税に関し、メンバー国を原産地とする製品は、他のメンバー国内においてその国の国内製品と同等の取扱いを受ける。

第8条：メンバー国は、ラテン・アメリカ統合協定を含み、本協定調印の日までに行われたり決め事項を継続して遵守することを約束する。又、協定発効までの暫定期間中に行われる外国貿易取引きにおけるそれぞれの立場をコールジネートする。そのために、

イ) 1994年12月31日までにメンバー国が相互に行う貿易においてメンバー国の利益に影響を与えることを避ける。

ロ) 暫定期間中、他のメンバー国の利益又はラテン・アメリカ統合協定諸国との間に締結された協定の目的に影響を与えることを避ける。

ハ) ラテン・アメリカ統合協定諸国との間に自由貿易地域を形成することを目的とした関税の引下げを交渉する時は、常に相互に話し合いを行う。

ニ) 原産物に与えられる利点、恩恵、その他の特権は、他のメンバー国に自動的に拡大される。

## 第II章 総 統

第9条：暫定期間中、本協定の管理と運営は、次の機関によって行われる。

イ) 共同市場審議会

ロ) 共同市場グループ

第10条：審議会は、共同市場の最高決議機関で共同市場の政策を指揮し、共同市場の最終的設置期限を履行し目的を達成するための決定を行う。

第11条：審議会は、メンバー国の外務及び大蔵大臣によって構成される。又、適宜に、少なくとも年に1回は、各メンバー国の大統領が会合する。

第12条：審議会の議長は、メンバー国代表がABC順で6ヶ月置きに交替し、会議は各メンバー国の外務大臣が主催し、大臣クラスの職責にあるものを会に招致することが出来る。

第13条：共同市場グループは、共同市場の運営主体で各外務大臣によって統轄される。

その職務は、次の通りである。

一協定の履行状況を監視する。

一審議会が採用した決定事項の履行のために必要とする措置。

一貿易自由化プログラム、マクロ経済政策の統轄、及び第3国との協定に関する交渉のため具体案を提案する。

一共同市場の設定をすゝめる上で必要な作業プログラムを推進する。

共同市場グループは、その目的を達成するために必要な場合は、下部グループを作ることが出来る。当初の下部グループは、別添に示す通りである。

又、共同市場グループは、その発足の日より60日間以内に内部規定を設定する。

第14条：共同市場グループは、各メンバー国の代表4名及び4名の代理人をもって構成される。

各代表は、それぞれの本国において次の機関を代表するものとする。

一外務省、経済省又は、これに同等の機関（工業、商業、貿易及び経済統轄部門）

一中央銀行

94年12月31日までの間、その任務を遂行するにあたって、必要であれば他の公共機関、及び民間代表を招集することが出来る。

第15条：共同市場グループの本部所在地は、モンテ・ビデオ市とし、書類の保管、業務連絡のため事務局を設置する。

第16条：暫定期間中、共同市場審議会及び共同市場グループの決定は、メンバー国代表全員の出席と同意のもとに行うものとする。

第17条：共同市場の公用語は、ポルトガル語とスペイン語とする。公文書は各メンバー国の公用語をもって行う。

第18条：1994年12月31日に共同市場が発足する前に、共同市場管理機関の機構を最終的に設定し、各部門の権限を明らかとするための臨時会議が招集される。

### 第三章 協定への加盟

第20条：他のラテン・アメリカ諸国の本協定への参加要請に対しては、これを受け入れる用意がある。その要請は本協定の成立後5年以降、各メンバー国によって審査される。ただしこの期限以前であっても他の地域経済ブロックに所属していないラテン・アメリカ諸国ならばその加入要請を受け入れることが出来る。要請受入れの決定は、メンバー国全員一致の意見にもとづいて行われるものとする。

### 第四章 協定よりの脱退

第21条：メンバー国の中、この協定を脱退したいと希望する国は正式文書をもって他のメンバー国に通達し、バグアイ国外務省に正式要請書を提出するものとする。

第22条：脱退が決定したあと、脱退するメンバー国の権利と義務は消滅することになるが、本協定に定める貿易の自由化、他の事項について脱退決定後60日以内にメンバー国が脱退国との間に行う事項は継続されるものとする。これにかゝる権利と義務は、脱退決定後も2ヶ

年間続行されるものとする。

## 第V章 その他

第23条：本協定は“アスンシオン条約”と呼ぶ。

第24条：本共同市場の設置を容易とするため、各メンバー国の国会議員による委員会が設置される。各メンバー国政府は、議会に対し本協定の推進状況についての情報を提供するものとする。本協定は、1991年3月26日アスンシオン市において行われ、同文のポルトガル語とスペイン語によって明文化されたものである。パラグアイ国政府は、本協定文書の保管人として同文のコピーを協定に署名し、加入したメンバー国に送付するものとする。

署名：アルゼンチン共和国政府　：カルロス・サウル・メネン

ギード・ディ・テーリャ

ブラジル連邦共和国政府　：フェルナンド・コーロル

フランシスコ・レゼッキ

パラグアイ共和国政府　　：アンドレス・ロドリゲス

アレンス・クルートス・バエスケン

ウルグアイ東部共和国政府：ルイス・アルベルト・ラカーリエ・エレイラ

エクトル・グロス・エスピエル

## アスンシオン協定添付I（抜粋）

### 貿易自由化プログラム

第1条：本協定のメンバー国は、遅くとも1994年12月31日までにメンバー国相互の貿易における関税その他の制約を撤廃することを協定する。

パラグアイ国及びウルグアイ国により提出された例外リストに関しては、アスンシオン協定第9条の規定にもとづきその期限は、1995年12月31日まで延期されるものとする。

第2条：第1条の説明として次の事項をつけ加える。

イ) “関税”とは、税関における課税その他これに相当する税務上、金融上、為替上の措置をいう。この中には、提供される役務のコストに近い手数料やこれに類似した徴収は、含まれない。

ロ) “制約”とは、行政上、金融上、為替上、一方的な決定により相手のメンバー国の貿易を阻止もしくは、困難とする措置をいう。但し、1980年に締結されたモンテ・ビデオ協定第50条に規定される状態にあるものは、この概念に含まれない。

第3条：本協定が効力を発揮した日以降各メンバー国は、段階的関税排除のプログラムを開始する。この措置は、ラテン・アメリカ統合協定に用いられる商品分類に従い分類されている関税表に含まれる商品に恩恵を与えるものである。関税引下げのプログラムは次の通りである。

1991年	6月30日	47%
◇	12月31日	54◇
92年	6月30日	61◇
◇	12月31日	68◇

93年	6月30日	75%
◇	12月31日	82%
94年	6月30日	89%
◇	12月31日	100%

第6条：本法に定める関税引下げのスケジュールは、各メンバー国が提出した次の数の例外リストは含まれない。

アルゼンチン 394、ブラジル 324、パラグアイ 439、ウルグアイ 960

第7条：上記例外リストの商品数は、各年末までに次の割合で減少するものとする。

- a) アルゼンチンとブラジルは、1990年12月31日以降1994年12月31日まで各年末に20%
- b) ウルグアイ国及びパラグアイ国は、アスンシオン協定発効の日10%、1991年12月31日に10%、以降1995年12月31日まで各年末に20%

#### アスンシオン条約添付II（抜粋）

第1条：次の場合は、メンバー国の原産と見做される。

- a) メンバー国を原産地とする原料のみを用いて他のメンバー国内で製造されるもの
- b) ALADI協定の商品分類に含まれる製品で同協定の代表者委員会が決議第78条に示す製品

1) メンバー国で生産されるものは、次のものを指す。

- 1) 領土内で採掘、生産、飼育される飲物、植物及び動物、狩猟、漁獲を含む
- 2) 領海内で採取される海産物
- 3) 領土内で行われる精製加工の結果生産される製品

#### 2・2 その他の条約及び協定

##### ーモンテ・ビデオ条約

1980年8月12日付 アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、チリー、エクアドール、メキシコ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ及びベネズエラ各政府によるラテン・アメリカ統合協定。

##### ーブラジル政府及びアルゼンチン政府間の統合、協力及び開発に関する条約。

1988年11月29日付 ブラジル、アルゼンチン両国の経済統合及び協力プロセスの確立を最終目的とする両国間協定。

##### ーブラジルーアルゼンチン2国間企業のステータス設定に関する条約。

1990年6月6日付 ブラジルーアルゼンチン間の経済協力及び統合プロセスの中で設置される2国間企業のステータスに関する協定。

##### ーブラジル、アルゼンチン間経済補充協定№14

1990年12月20日付 二国間の共同市場開設のために必要とする条件の設置及び便宜の供与。

##### ーブラジル、アルゼンチン、パラグアイ及びウルグアイ国経済補充協定第18号

1991年11月29日付 1991年3月26日付アスンシオン条約にもとづく共同市場設置のために必要とする条件の設置及び便宜の供与。

—メルコスール・米国間協定（4 + 1 協定）

1991年6月19日付 メルコスール4ヶ国と米国との通商、投資に関する協議会設置に関する協定。

—メルコスールとEC間協力協定

1992年5月29日 両市場間の情報交換、人材の交流、技術指導、その他必要と認められる相互協力に関する協定。

—論争点の解決にかゝわるメンバー国協定

1991年12月17日 アスンシオン条約第3条に定めるメンバー国間の論争調停にかゝわる協定。

—原産地証明等に関する協定

アスンシオン条約添付Ⅱ第12条第1項に定める原産地にかゝわる実務上の規定。



### 3 協定発効までのスケジュール

1992年5月22日各メンバー国の蔵相及び中央銀行総裁が、ブエノス・アイレス市に集まって開催した会議において、アスンシオン協定の決定事項を履行するためメルコスール協定発効前日の1994年12月31日までに行わねばならない各部門別のスケジュールが、次のように決定された。なお、に定められたスケジュールは、メルコスール審議会の決定によって変更することが出来るが、いかなる場合においても予定の期日を3ヶ月間延長することは出来ず、又94年12月31日を過ぎることも出来ないことが明記されている。

第1グループ 通商問題		(期 限)	
1.	メルコスール・メンバー国以外の国より補助つき製品輸入又は、タンピング製品の輸入に対応する防衛措置に関する規定。		
1)	メンバー国各国よりの提案内容の検討	92年	7月
2)	規定案についての討議	〃	8月
3)	最終規定の草案作成	〃	9月
4)	メルコスール事務局に対する規定案の提出	〃	10月
2.	防衛手段に関する共通政策		
1)	メルコスール・メンバー国各国別提案事項の提出	92年	12月
2)	提案事項討議	93年	3月
3)	各メンバー国内における提案事項の討議と分析	〃	6月
4)	提案事項の第2回目討議	〃	9月
5)	最終的規定案の作成	〃	12月
6)	最終的規定案の内容評価	94年	2月
7)	最終的規定案の討議	〃	3月
8)	メルコスール事務局による規定作成のため規定案の提出	〃	6月
3.	特別関税制度		
1)	各メンバー国における現行のDRAW-BACK制度、一時的輸入許可、その他特別関係制度の調査	92年	12月
2)	国別の法規間にみられる不均衡についての分析	93年	6月
3)	不均衡を排除するメルコスール独自の法規作成についての提案	〃	12月
4)	メルコスール法規の草案	94年	3月
5)	各メンバー国における法規草案の評価	〃	6月
6)	最終文書の作成	〃	8月
7)	メルコスール事務局による規定作成のため最終文書の提出	〃	9月
4.	輸出振興システムと措置		
1)	輸出金融保険を含み、税務上、金融上の既存制度の検討	92年	12月

2) 各メンバー国別現行法規の比較	92年	12月
3) メルコスールの輸出振興政策を導く基本方針の設定	93年	3月
4) 提案された基本案の討議	◇	6月
5) 最終文書の作成	◇	9月
6) メルコスール事務局による規定作成のため最終文書の提出	◇	10月
5. 共通関税品目分類		
1) ALADI (ラテン・アメリカ統合協定) の関税品目分類をベースとするメルコスール共通関税品目分類基準の設定	92年	7月
2) 各メンバー国における同上基準の分析	◇	9月
3) 共通提案事項の作成と討議	◇	8月
4) メルコスール事務局に関連文書の提出	◇	12月
6. 圏内通商における非関税障壁とその解消		
1) 各メンバー国に現存する非関税障壁の調査	92年	8月
2) 非関税障壁の内容別分類	◇	10月
3) 非関税障壁の段階的解消を図るタイム・スケジュールの設定	◇	11月
4) メルコスール事務局による関連規定設定のため同タイム・スケジュールの事務局あて提出	◇	12月
7. フリー・ゾーン及び輸出工業地帯—特別税関地帯		
1) 各メンバー国の関連法規の交換	92年	10月
2) 同関連法規にみられる不均衡な問題点の分析	93年	3月
3) これらの地域を原産地とする製品に与えられる特典についての分析	◇	6月
4) 共通規定の設定	◇	10月
5) メルコスール事務局による関連規定設定のため共通規定の同事務局あて提出	◇	12月
8. 外国貿易統計の交流に関する協定		
1) 各メンバー国別に外国貿易統計事務を行う機関を明らかとする	92年	7月
2) 情報の提出方法と期間の設定	◇	9月
3) 情報交換の日程表の作成	◇	◇
4) メルコスール事務局による関連規定設定のため同日程表の提出	◇	10月
9. 第3国と署名した2国間協定の評価		
1) 協定内容の分析	92年	9月
2) メルコスール統合プロセスへの影響についての研究	93年	3月
3) メルコスール事務局による関連現実設定のため同事務局へ関連文書の提出	◇	4月

## 第2グループ関税問題

### 1. メルコスール用語集の作成

1) 各国別の用語と意味についての情報の交換	92年	7月
------------------------	-----	----

2) 国別税関用語の比較と矛盾点の指摘	92年	10月
3) メルコスールで用いる用語の決定	◇	11月
4) メルコスール事務局による規定作成のため用語集の提出	◇	12月
2. 法規の調整		
1) 関税法規に関する情報の交換	93年	6月
イ) 各メンバー国の現行法規の比較及び矛盾点の指摘	◇	9月
ロ) 基本法規案の草案	◇	12月
ハ) メルコスールの関税に関する基本法案の草案	94年	3月
ニ) メルコスール事務局による規定作成のため基本法案の提出	◇	6月
2) 移民に関する法律の整備	93年	8月
イ) 各メンバー国の現行法規の比較及び矛盾点の指摘	◇	12月
ロ) 各メンバー国内及び対第3国に対する暫定法規の草案	94年	4月
ハ) メルコスール事務局による規定作成のため暫定案の提出	◇	6月
3) 国境における観光客の取扱いにかゝる法規	93年	7月
イ) 現行法規の比較及び矛盾点の指摘	◇	9月
ロ) 暫定法規の草案	94年	3月
3. 情報処理コントロール		
1) 統一した関税品目分類コードの決定	92年	12月
2) 通過商品、輸出入商品、輸送手段に関する情報の決定	93年	3月
3) 統一したコード番号の設定	◇	◇
4) 通信番号の決定	◇	◇
5) 交易登録番号の決定	◇	6月
6) 共通通関書類様式の設定	◇	10月
7) 統合システムにおける各税関が必要とするインフラ・ストラクチャーの設定	94年	6月
8) パイロット・プロジェクトの設置	◇	◇
9) 上記関係文書のメルコスール事務局への提出	◇	12月
4. 商品分類の統轄		
1) 商品分類基準に関する情報の交換	92年	9月
2) 各メンバー国間の商品分類基準の比較及び矛盾点の指摘	◇	12月
3) 暫定的商品分類基準の策定	◇	◇
4) メルコスール事務局への草案の提出	93年	3月
5) メルコスール商品分類基準の作成	◇	10月
6) メルコスールの事務局における規則設定のための上記分類基準の提出	◇	12月
5. 国境における事務の簡素化		
1) 輸送形態に関する情報の交換	92年	12月
2) 統一封ろうシステムの設定		
イ) 各国の封ろうシステムに関する情報の交換	◇	9月

ロ) 各国の封ろうシステムを相互に認知するシステムの設置	92年	12月
ハ) メルコスールの封ろうシステムの提案	93年	3月
ニ) メルコスール事務局への提出	◇	6月
3) 国境の統合コントロール・システムの設置		
イ) 国境税関長会議の開催	92年	9月
ロ) メンバー国間において統合される地区の決定	◇	◇
ハ) 2国間の交渉により税関統合地区の決定	◇	12月
ニ) 他の国土内における検査実施のための規則の設定	94年	6月
ホ) メルコスール事務局への書類提出	◇	10月
4) 税関の24時間操業制度の設置		
イ) 税関長会議	92年	12月
ロ) メンバー国間において24時間操業を行う税関の決定	◇	6月
ハ) 2国間において細部にわたる操業のための条件の決定	◇	12月
ニ) その操業を目的とした適切な装置の設置に関する提案	94年	3月
ホ) メルコスール事務局の承認とりつけと規則設定のため関連文書の提出	◇	12月
6. 輸入における商品価値評価システム		
1) 現状の分析	92年	9月
2) 共通システムの決定	93年	12月
3) 関連法規の設定	94年	6月
4) 共通システムの採用に必要とする援護措置の決定	◇	◇
5) メルコスール事務局に対する関連文書の提出	◇	9月
7. 税関業務能力の向上		
1) メルコスールの情報に関するセミナーの開催	92年	12月
2) メルコスールに関する講習プログラムの設定	93年	6月
8. 移民コントロール		
1) 国境統合センターの設置	93年	9月
2) 移民関連法規の調整	94年	6月
3) 情報処理システムの設置	◇	◇
4) 単一旅行書類の創設	◇	◇
9. 動植物衛生コントロール		
1) 統一された植物衛生検査のパイロット・プランの設置	93年	3月
2) 新設されたパイロット・プランの評価	◇	6月
第3グループ 技術基準		
1. 国別の技術基準及び細則に関する情報交換	93年	4月
2. 技術基準：メルコスール技術基準委員会の設置	◇	◇
3. 4ヶ国で販売される工業製品の内容に関する許容度等に関する協議	92年	6月

4. 包装された製品の内容及び許容度について		
1) 許容システムと包装された製品のサンプルに関する取決め	92年	7月
5. 食品添加物		
1) 提案事項について各国別の分析	92年	9月
2) 提案事項に関する討議	◇	◇
3) 最終的提案事項の作成	93年	6月
4) メルコスール事務局による規定作成のため関連書類の提出	◇	◇
6. 食品登録		
1) 提案事項について各国別の分析	92年	9月
2) 提案事項に関する討議	◇	◇
3) 最終的提案事項の作成	93年	6月
4) メルコスール事務局への関連書類の提出	◇	◇
7. 販売用表示～内容及び品質基準		
1) 加工食品の内容及び品質基準設定のための方法提案	92年	8月
2) 提案内容の討議	◇	9月
3) 優先品目の選定及び品質基準の設定	◇	◇
4) 提案事項の調整	93年	3月
5) 第8グループ（農業部門）が指示するその他の製品に対する提案	◇	◇
6) 提出された案の討議	◇	6月
8. 汚染物		
1) 提案事項の各メンバー国内における分析	92年	10月
2) 提案事項に対する討議	◇	11月
3) 最終案の作成	93年	6月
4) メルコスール事務局への提出	◇	◇
9. 特別食又は薬用食品のレッテルについて	94年	10月
10. 微生物に関する規程	93年	6月
11. 食品と接触する包装及び物質について	92年	11月
12. 健康に関連する製品	93年	12月
13. 自動車工業		
1) 技術規制の調整	92年	94年
2) テスト用ラボラトリーの信認	93年	11月
3) 自動車証明のための手続き	92年	◇
技術規制の調整は、次のものについて行われる ブレーキ・システム、安全ガラス、タイヤ、車輪、ディーゼル車の排 気物、油脂、雑音		
14. 計量機器	94年	11月
15. 無線通信	93年	◇
16. 工業製品の品質	94年	◇

17. 工業技術の能力の拡大	94年	11月
18. 玩具	92年	9月
玩具類の安全性に関する提案事項の分析	◇	◇

#### 第4グループ 貿易に関連する税務、通貨政策

1. 為替制度		
1) 支払通貨としての各メンバー国通貨及び米ドル使用の選択	92年	12月
2) ADADIメンバー国間の長期証券の割引き	◇	◇
3) 義務的支払	◇	◇
4) 外国通貨による銀行預金（居住者、非居住者の場合）制度	◇	◇
5) 輸入に対する融資登録	94年	6月
6) 紙幣及びトラベルチェックの取扱い	93年	◇
7) 資本／投資に関する制度	◇	12月
8) 外貨の受入れと交渉	94年	6月
9) 為替市場の自由化	◇	◇
10) 為替システムに関するその他の事項	◇	◇
2. 資本市場		
1) 証券取引所における投資にかゝわる制度	93年	12月
3. 金融システム		
1) メンバー国別現行制度の比較、問題点の指摘、新制度の提案等	93年	12月
2) 提案事項の分析、新制度の設定	94年	6月
4. 保険    全上	◇	◇
5. 投資の促進及び相互保護	93年	◇
6. 情報システムの管理及び品質	94年	◇

#### 第5グループ 陸上輸送

1. 道路の貨物運搬輸送		
1) メンバー国間の制約を全面的に排除するための2国間交渉の終結	93年	6月
2) 危険な貨物の輸送に関する規則の調整	◇	3月
2. 道路の乗客輸送		
1) メンバー国各国の現行規制の比較	92年	10月
2) 部門の統合のための方法案の提案	93年	9月
3. 鉄道輸送		
1) 鉄道輸送の利点に関する分析	92年	12月
2) 鉄道輸送振興のための提案	93年	6月
3) 鉄道による危険物の輸送に関する各メンバー国規制の調整	◇	12月
4) 鉄道貨物税関書類の簡素化	92年	◇
5) パラ積み鉄道輸送貨物の重量計容レベルの設定	93年	3月

4. 自動車輸送における労働法規の検討	93年	3月
第6グループ 海上輸送		
1. 海上輸送に関する多国間協定		
1) 現行2国間協定の分析	92年	7月
2) 地域内海上輸送に関する統計の整備	◇	◇
3) 最終的協定テキストの作成及び規則の設定	93年	12月
2. 船舶の登録	◇	6月
3. 航海安全に関する規則の設定	◇	10月
第7グループ 工業及び技術政策		
1. 地域別又は部門別工業振興政策の調整		
1) 各メンバー国の連邦ベース及び州ベースにおける関連法規の調査	92年	9月
2) 矛盾する問題点の指摘	93年	3月
3) 本テーマの取扱い方に関する提案	◇	6月
2. 共通技術政策		
1) 次の情報収集	92年	12月
工業所有権に関する法規、技術移転に関する法規、技術に関する情報システム、国際間の協定、プロジェクト及び基金、企業に情報を提供する調査研究センター		
2) 問題点の分析	92年	5月
3) メルコスールの国家及び州ベースの法規作成に関する討議	93年	9月
4) 各国別提案事項の分析	◇	11月
5) 各テーマの討議	94年	3月
6) 最終文書の作成	◇	5月
3. 環境問題に関する連邦及び州ベースの法規の調整		
1) メンバー国の連邦及び州ベースで設定されている法規、及び実際の法規適用度合の調査	93年	5月
2) 問題点の指摘と分析	◇	6月
3) 調整案の提案、討議、最終規則の設定	94年	11月
4. 品質及び生産性に関する政策の調整		
1) 品質及び生産性に関するプログラムの調査	92年	12月
2) 問題点の指摘と国際基準への適応	93年	3月
3) 品質及び生産性に関するメルコスール自体のプログラムの作成	◇	◇
4) 最終提案の作成及び規則の設定	◇	12月
5. 零細、小、中企業政策		
1) メルコスールにおける零細、小、中企業の特徴	92年	12月
2) メルコスールとしての政策案の提案	93年	7月

3) 最終文書の作成及び規則の設定	93年	12月
6. メルコスール圏内における部門別の競争力に関する分析	◇	◇

第8グループ 農業政策

1. 農牧及びアグロインダストリー活動の調和		
1) 情報整理及び方法論の設定	92年	12月
2) 矛盾する問題点の分析	93年	3月
3) 本テーマに関する提案事項の作成	◇	6月
4) 提案事項に対する討議	◇	9月
5) 最終文書の作成	◇	10月
6) 最終承認のとりつけ及び規定作成のため事務局への提出	◇	11月
2. 農牧活動及びアグロインダストリー活動に対する技術政策の調整		
1) 情報の集収	93年	5月
2) 矛盾する問題点の分析	◇	7月
3) 本テーマに関する討議	◇	9月
4) 各メンバー国における提案事項の分析	◇	10月
5) 再度テーマに関する討議	◇	11月
6) 最終文書作成	94年	2月
7) 事務局への提出	◇	3月
3. 農業政策の調整		
1) 矛盾する問題点の指摘	92年	12月
2) 次の問題調整のための優先政策の決定 農業保険、灌漑、生産資材及び農業機械、農業融資、補償金の支払、 貯蔵、公共在庫、社会問題、技術養成、農林教育、最低保証価格、 農牧活動保証、農林電化、土地所得のための融資、信用協同組合、 生産性と品質、農産物の販売システム	◇	◇
3) 最終文書の作成	93年	6月
4) 優先事項に関する討議	◇	8月
5) 最終提案事項の事務局への提出	◇	9月
6) 調整のための措置の実施	◇	11月
4. メルコスール圏内における部門別の競争力に関する分析		
1) 各部門の内容調査	92年	12月
2) 各部門別情報の集収	93年	3月
3) 集収した情報の分析	◇	6月
4) 最終提案事項の事務局への提出	◇	11月
5. 農牧産品の自由貿易に対する障壁		
1) 障壁となる事項についての調査	92年	9月
2) 問題点の分析	◇	11月



3) 障害点排除のための提案事項の作成	93年	3月
4) 最終提案事項の事務局への提出	◇	4月
6. 中、小生産者のメルコスール統合プロセスへの参加	◇	10月
7. 農牧部門における天然資源と環境保護に関する対策		
1) 関連法規と各国の政策に関する資料の集収	93年	5月
2) 問題点の分析	◇	6月
3) 提案事項の分析	◇	9月
4) 提案事項の討議	◇	12月
5) 最終文書の作成	94年	3月
6) 最終文書の事務局への提出	◇	6月
8. 農業の登録についての規定	92年	12月

### 第9グループ エネルギー政策

1. エネルギー関連法規及びエネルギー市場制度と組織に関する事項		
2. 技術開発		
1) 情報の収集と分析	93年	6月
2) メンバー国に存在する不均衡な問題点の指摘	◇	9月
3) メルコスール事務局への提出規則の設定	◇	12月
3. エネルギー価格：絶対価格と相対価格		
1) メンバー国間の矛盾した問題点の指摘	93年	6月
2) 各国の基準調整のための提案	◇	◇
3) 提案事項のメルコスール事務局への提出と規則の設定	◇	12月
4. 税務上の問題：全体レベルにおける税金及び製品別税率		
1) エネルギーにかゝる税務上の取扱い方に関する研究	93年	6月
2) メンバー国内の不均衡の問題点の指摘	◇	◇
3) その調整のための提案	◇	9月
4) メルコスール事務局への提出規則の設定	◇	12月
5. 電気及び燃料		
1) メンバー国内の実状調査	93年	3月
2) 不均衡な問題点の調整のための提案	◇	6月
3) メルコスール事務局への提出、規則の設定	◇	9月
6. 環境に関する法規		
1) メンバー国に存在する不均衡な問題点の指摘	93年	6月
2) その調整のための提案	◇	8月
3) 提案事項の事務局への提出、規則の設定	◇	12月
7. 品質及び生産性		
1) この分野における共通プログラムのベースの設定	92年	12月
2) エネルギー部門の合理化、品質及び生産性に関する共通プログラムの	93年	6月

設定

8. メルコスールにおけるエネルギー政策の方針

- |               |     |     |
|---------------|-----|-----|
| 1) 基本的事項の決定   | 93年 | 6月  |
| 2) 基本方針の設定    | ◇   | 12月 |
| 3) エネルギー政策の統轄 | 94年 | 6月  |

第10グループ マクロ経済政策

1. 対外共通関税

- |                            |     |     |
|----------------------------|-----|-----|
| 1) メンバー国の関税制度の比較           | 92年 | 7月  |
| 2) 各国の提案に関する4国間の討議         | ◇   | 10月 |
| 3) 同上討議内容について各国別の分析        | ◇   | 12月 |
| 4) 最終提案文書の作成               | 93年 | 3月  |
| 5) 例外リスト・システム及び輸入にかゝる関税の調整 | ◇   | 4月  |
| 6) 最終提案文書の事務局への提出、規則の設定    | ◇   | ◇   |

2. 連邦、県、州、及び市税システムの比較

- |  |     |     |
|--|-----|-----|
| 1) 連邦税～国別の相違点の指摘   | 92年 | 10月 |
| 2) 県州市税～国別の相違点の指摘  | ◇   | 11月 |
| 3) 社会保障に関連する納付金について                                      | ◇   | ◇   |
| 4) 利益の送金、利息、ロイヤリティー及び各種サービスの支払いにかゝる課税制度のメンバー国間の相違点に関する調査 | ◇   | 12月 |
| 5) 州税制度に関する基準の統一   | 93年 | 6月  |
| 6) 外国貿易にかゝる間接税の調査  | 94年 | ◇   |
| 7) 最終提案事項の事務局への提案、規則の設定                                  | 94年 | 9月  |

3. マクロ経済政策の調整

93年 12月

4. メルコスール内部における競争防止に関する法則の調整

- |                         |     |    |
|-------------------------|-----|----|
| 1) 4ヶ国における連邦及び州別現行法規の比較 | 93年 | 3月 |
|-------------------------|-----|----|

5. メルコスール内部における消費者擁護に関する法規の調整

- |                           |     |     |
|---------------------------|-----|-----|
| 1) メンバー国別現行法規の比較          | 92年 | 12月 |
| 2) 相違点の分析                 | 93年 | 3月  |
| 3) 調整のための提案及び最終文書の事務局への提出 | ◇   | 9月  |

6. メルコスール内のサービスに関する取扱いについて

◇ 12月

7. メルコスール内における国の独占に関する取扱いについて

◇ 6月

8. メンバー国のデータ・バンク及び文書保管について

◇ 12月

第11グループ 労働法、雇用、農村保険

1. 個人労働に関連する事項

- |                              |     |     |
|------------------------------|-----|-----|
| 1) メルコスール・メンバー国間の労働システムの比較分析 | 92年 | 12月 |
| 2) 労働コスト、給与水準及び社会保障費の比較分析    | 93年 | ◇   |

2. 集団労働に関する事項		
1) 方法論の設定	92年	12月
2) 各メンバー国間にみられる相違点の指摘	93年	3月
3) 提案事項の提出、事務局による法則の設定	◇	12月
3. 雇用		
雇用とその反響～部門別の調査	93年	12月
4. 職業の形成		
1) 資格修得のための訓練	93年	9月
2) 職業適性の認知	◇	12月
5. 労働衛生及び労働安全		
1) メンバー国間の関連法規比較	93年	5月
2) メンバー国間の相違点の指摘	◇	6月
3) 事務局への提案事項の提出、規則の設定	94年	5月
6. 社会保障		
1) メンバー国間法規の比較分析	93年	5月
2) 各相違点、矛盾点の指摘	◇	6月
3) 最終文書の事務局への提出、規則の設定	94年	5月
7. 陸上及び海上輸送における労働コスト	92年	◇
機構上の問題		
1) 最終的なメルコスール機関の機構	94年	5月
2) メルコスール機関の権限	◇	◇
3) 法定のためのメカニズム	◇	◇
4) 暫定期間の終了後におけるメルコスールの最終的機構に関する臨時会議	94年	6月

## 4. メルコスール諸国の概況

### 4.1 概況

世銀他のデータによるメルコスールの現況は、次表の通りである。

メルコスールの基礎データ

(1991年)

1991年の状況	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ
面積 1,000Km <sup>2</sup>	2,791	8,512	407	177
森林面積 1,000Km <sup>2</sup>	594	5,555	151	67
人口 100万人	33	145	4.4	3.7
都市人口比率 (%)	86	75	48	86
年間人口増加率 (%)	1.4	2.1	2.9	0.6
国内総生産高 億ドル	994	4,183	40.4	82.2
国内生産構造 (%)				
農業	14	9	30	13
工業	33	43	22	29
サービス	53	48	48	58
計	100	100	100	100
1人当り所得 US\$	4,117	2,726	971	2,836
農耕地面積 1,000ha	35,750	78,550	4,392	1,324
トラクター保有数 (1,000台)	214	700	11	33
輸出額 100万ドル	12,354	31,621	737	1,605
輸出構造 (%)				
第1次産品	68	48	92	61
工業製品	32	52	8	39
(輸送機器)	(6)	(20)	(0)	(3)
(燃料鉱物)	(4)	(15)	(12)	(0)
輸入額 100万ドル	8,090	21,017	1,275	1,637
輸入構造 (%)				
食糧	4	5	12	7
燃料	9	30	22	14
その他第1次産品	4	8	2	7
輸送機器	36	22	28	36
その他工業製品	42	45	36	36
外貨保有高 100万ドル	6,399	9,805	978	855
外債合計額 100万ドル	45,000	121,000	2,100	6,900

インフレ率 (91年) (%)	110	475	19,8	81,5
文盲率 (%)	4	27,1	7,4	2,8
(経済活動人口に対する比率)				
失業率 (%)				
(経済活動人口に対する比率)	5,1	7,2	7	9,9
平均寿命	70,6	6,4	68	72

#### 4.2 アルゼンチン

アルゼンチンでは、1991年4月1日に実施された対米ドル平価を1:1に保つ「カバーロ・プラン」が継続中である。インフレの抑制と経済成長を図ったこの政策は、初期の目的を達成し、国内経済を根本的に変革してその成果を現わしているものの、2年間に及ぶ対米ドル平価の維持は、ペソの過大評価となって輸出の停滞を招き、国の対外収支を極度に圧迫するという歪みが出始めている。このため、アルゼンチン政府は、昨年10月輸入が激増しているブラジルとの貿易関係の修復を目指す輸入税の1つ、TAXA DE ESTADÍSTICA (統計システム基金)の3%より10%への引上げを実施したが、段階的に関税の引下げを目指しているメルコスールの方向に逆行するものであるとしてメンバー国のきびしい批判を受けた。

すでに長期にわたって停滞していた国内の経済活動は、同プランの実施以降上向きに変わり、92年もいまだ予備的な数字ながら8%の高度成長が達成されたものと思われる。国内インフレは、月1%、年間25,4%程度に止まっており、数年前まで続いたハイパー・インフレは、過去のものとなっている。国内の財政収支も均衡し、国内取引量は、カバーロ・プラン後30%増加したといわれている。これに関連する工業生産も92年中、前年比15,4%の高い成長が記録されている。しかし、ラテン・アメリカの中では、所得の配分がもっとも均衡した国として知られるアルゼンチンも中産階級の購買力は、低下しており、国内物価は対米ドルの平価を維持する政策の中で高いものとなっている。

ハイパー・インフレの時代、ブエノス・アイレスは、世界の中でも物価の安い都市として知られ、レストランでの食事も10ドル見当であった。今はそれが25ドルと高く、ジュース1本2ドルという状況にある。国内物価の高さは、国際市場における競争力を弱め、ブラジルの生産コストをアルゼンチンの半分と云わしめるまでにいたり、アルゼンチンの輸出が停滞し、ブラジル製品の輸入が極度に増加する環境を作っている。

工業界は、ブラジル製品の大量輸入に苦情を訴え、政府も前述の輸入抑制の措置をとっているが、ブラジル製品の競争力は依然として強く、92年に達した10億ドルの入超は、93年にも繰返えされる見通しが強い。対ブラジル貿易は、伝統的にブラジル側の入超となっていた形態が反転し、その額が極めて大きくなっているため、ブラジル政府も貿易関係の調整に乗り出しており、93年中には、例年行う小麦のほか、新たに石油及び自動車をつま々4億ドル見当輸入し、均衡を図る計画をすゝめている。

2,7百万Km<sup>2</sup>の面積を持つアルゼンチンは、その国土が北部において乾燥、南部において寒冷、西部はアンデス山系という制約はあるものの、その中間に位する広大なパンパ地方は、世界でも有数の肥沃な地帯として知られ、高品質の果実、ぶどう、りんご等を肥料をいわずに生産出来る恵まれた環境下にある。この地帯で飼育されている牛の乳の生産量は、1日当り、12~15%に達しており、ブラジルの1,99%をはるかに上回る。主要穀類の小麦、とうもろこし、大豆の生産性も高く、その反収は、5ヶ年間の

平均でブラジルの 1.830kg/ha に対し、2.016Kg と高い。牧草の質がすぐれているため、牛肉の高い品質は、世界的に有名である。

国内の農耕地面積は、35百万ヘクタール前後で穀類、油脂作物、工業原料作物、果実及び野菜類が豊富に栽培されている。この中、穀類、油脂原料作物等大面積栽培に当てられている面積は、21~23百万ヘクタールで91/92農年には約40百万トンの穀類（油脂作物を含む）が生産されている。穀類の国内消費量は、ほぼ16~17百万トンと推定されているので大量の余剰品を有しており、海外に輸出されているが、その量は、世界でも有数の穀類輸出国に数えられており、世界輸出の10%を占める。中でも大豆と小麦の輸出が顕著である。

リンゴを中心とする果実の生産面では、かんきつ類とリンゴ梨類を同時に生産出来る世界でも数少ない国の一つで、中でもリンゴと梨の輸出は、世界貿易量の7%および10%を占める。みかんが北部の亜熱帯圏で栽培されるのに対し、リンゴ梨は南部の冷涼な地域を産地としている。一方、高品質の牛肉、牛皮、羊毛等を産出する国内の牧場地帯は、137百万ヘクタールあり、世銀の推定によると1990年において約50百万頭の牛と約30百万頭の羊を保有する。

牛肉の輸出量は、1970年当時 700千トン位に達していたが80年代に入ってより減少し、91年において389千トン、92年が 280 千トンの輸出であった。この中、EC市場で高品質、したがって価格の高い分類とされるHILTON割当ての量は、1990年において17.5千トンであった。国内における1人当りの消費量も大きく、1992年において1人年間消費量は、69Kgと発表されている。

製造工業部門では、食品飲料及び煙草の生産が大きく、金属、機械、輸送機器、及び電気機器部門が国内の工業生産に大きな割合を占める部門である。

#### アルゼンチンの一般概況

1) 面積	大陸内	2,791,810 Km <sup>2</sup>	
	南極圏	965,314 ♫	
	大西洋諸島	4,150 ♫	
	計	3,761,274 ♫	
	海岸線	5,117 km	
	国境線	チリー	5,308 ♫
		ブラジル	1,132 ♫
		ボリビア	742 ♫
		パラグアイ	1,699 ♫
		ウルグアイ	495 ♫
2) 人口	1980年の人口センサス	27,947 千人	
	75/85年の増加率	12,9%	
	都市人口		
	25千~ 50千	47 都市	
	50千~ 100千	24 ♫	
100千~ 500千	13 ♫		

500千~1,000千	4 都市
1,000 以上	1 *
計	89 *
人口密度 Km <sup>2</sup> 当り	10 人
首都ブエノス・アイレスの人口	2,908 千人
大ブエノス・アイレス圏の人口	6,802 *

### 3) 経済指標

#### イ) 国内総生産

年 度	国内総生産高 (PBI)		推定人口	1人当りPBI US\$	
	PBI 100万ドル (公定レート) A	PBI 100万ドル (1977年ベース) B		A	B
1980	149.075	84.882	27,9	5.495	2.802
81	91.722	86.378	28,3	3.238	3.050
82	56.980	69.178	28,7	1.985	2.410
83	76.007	85.977	29,1	2.613	2.956
84	69.443	79.188	29,5	2.356	2.686
85	61.288	75.407	29,9	2.051	2.524
86	72.764	82.124	30,3	2.403	2.712
87	72.639	90.101	30,7	2.530	2.936
88	83.994	84.658	31,1	2.701	2.722
89	52.276	87.233	31,5	1.659	2.768
90	87.230	89.983	31,9	2.731	2.817
91	99.449	96.651	32,6	3.051	2.965

出所: TENDENCIA

部 門 別	部門別生長率 (%)			
	1990	1991	1992 推定	1993 予想
農 林 水 産	9,8	4,6	1,9	4,0
鉱 業	- 1,6	3,0	13,5	5,9
製 造 業	- 4,8	8,2	15,4	7,0
電気、ガス、水道	- 1,6	4,0	7,5	4,0
建 築	- 18,8	26,5	21,8	25,6
商 業	- 1,6	11,0	14,5	10,5
輸 送 通 信	3,6	6,5	11,2	6,5
金 融 保 険	2,0	3,8	6,0	5,5
そ の 他	0,6	- 2,3	- 4,0	- 3,5
平 均	0,4	5,3	8,0	5,5

出所: PCRA、TENDENCIA

ロ) 物価

物 価 推 移

年 月	消費者物価指数		卸先物価指数		給与指数 1983=100
	月 別	年 間	月 別	年 間	
1991年 平均		171,7		110,5	83,1
1992年 1月	3,0	75,9	0,4	42,9	86,2
2	2,2	41,6	0,5	4,1	80,1
3	2,1	30,2	1,5	- 5,2	84,8
4	1,3	25,0	0,1	3,9	87,9
5	0,7	22,5	0,0	2,8	90,2
6	0,8	19,8	0,8	2,6	92,0
7	1,7	18,7	0,9	3,1	90,8
8	1,5	18,9	0,6	4,2	91,3
9	1,0	18,0	0,7	4,4	92,2
10	1,3	17,9	0,1	3,8	92,1
11	2,0	19,8	4,5	9,4	91,0
12	1,0	20,2	1,5	12,1	90,1
平均	-	25,4		7,3	89,0

出所：INDEC

ハ) 対外取引

輸 出

年 度	第1次産品	工業製品	計	比 率	
				第1次産品	工業製品
1981	4.243	4.900	9.143	46,4	53,6
82	3.150	4.252	7.402	42,6	57,4
83	3.544	4.292	7.836	45,2	54,8
84	3.607	4.500	8.107	44,5	55,5
85	3.551	4.845	8.396	62,3	57,7
86	2.950	3.903	6.853	43,0	57,0
87	2.698	3.660	6.358	42,4	57,6
88	2.492	6.450	8.942	27,9	72,1
89	2.466	7.107	8.573	25,8	74,2
90	3.340	9.014	12.354	27,0	73,0
91	3.307	8.665	11.972	27,6	72,4
92*	4.150	8.350	12.500	33,2	66,8



## アルゼンチンの主要輸出品目

100万ドル

品目分類	1988	1989	1990
農林水産物			
穀類	1,552.2	1,227.0	2,201.7
植物油	903.3	875.9	762.1
搾油粕	1,411.5	1,297.5	156.1
果実	159.0	152.0	204.7
肉類	620.8	742.2	898.5
水産物	265.7	281.0	306.5
羊毛	243.6	171.7	219.2
皮革	382.9	373.9	488.0
小計	5,539.0	5,121.2	6,236.8
金属及び加工品	912.2	1,221.5	1,163.3
鉱物燃料及び副産物	156.6	333.5	984.4
化学工業製品	457.9	487.2	522.0
機械器具	364.0	430.0	485.7
紙及び加工品	136.0	155.2	223.4
輸送機器	170.9	190.1	223.1
繊維	133.7	191.9	197.3
その他	1,070.8	442.4	2,318.0
計	8,942.0	8,573.0	12,354.0

出所：INDEC

## アルゼンチンの貿易相手国 (輸出先市場)

100万ドル

国別	1988	1989	1990
米 国	1,186	1,150	1,665
ブラジル	608	1,124	1,423
オランダ	1,087	983	1,375
イタリー	340	290	523
イラン	184	297	512
西 独	518	413	511
ソ 連	859	829	499
チリ	259	350	462
日 本	333	270	395
ベルギー	242	281	317
その他	3,326	2,586	4,672
計	8,942	8,573	12,354

輸 入

年 度	資 本 財	消 費 財	中 間 財	燃 料 油 脂	計
1981	2,059	1,632	4,728	1,011	9,430
82	1,785	232	2,504	816	5,337
83	1,577	241	2,216	470	4,504
84	1,496	255	2,343	491	4,585
85	1,519	105	1,730	460	3,814
86	1,651	217	2,433	423	4,724
87	2,282	245	2,627	665	5,819
88	2,061	204	2,558	499	5,322
89	1,319	181	2,146	554	4,200
90	1,329	330	2,104	316	4,079
91	2,559	1,697	3,347	487	8,090
92※	4,250	3,100	5,750	500	13,600

出所：INDEC

※予備推定値

輸 入 先 市 場

国 別	1988	1989	1990
米 国	908	880	862
ブ ラ ジ ル	971	721	712
西 独	607	394	350
ポ リ ビ ア	227	233	236
イ タ リ ー	308	243	202
フ ラ ン ス	228	183	144
日 本	349	181	133
ベ ル ギ ー	196	123	121
ウ ル グ ア イ	131	99	116
メ キ シ コ	119	99	115
そ の 他	1,278	1,040	1,082
計	5,322	4,200	4,079

出所：INDEC

予備推定値ではあるが、80年代を通じて続いた貿易の黒字残高が、92年に始めて赤字（約1,100百万ドル）に転じた。輸出は、90年以降ほぼ同規模のレベルで行われたが、92年には輸入が、前年を68%の増加を示し、これが大巾な入超の原因となっている。輸入項目の中では、資本財における前年比66%増、中間財の72%、消費財82%とすべて高率の増加率であったが、これは、対ドル平価を1:1に維持したペソの過大評価から隣国ブラジル製品の輸入が急増したためであった。1991年以前のハイパー・インフレ時代に出来なかった工業設備の更新が行われたものとみられる。

又、輸出が前年並みに終わっているのは、国内需要の増加から輸出余力を落したためであると説明されている。対アルゼンチン貿易に大巾な出超を記録しているブラジルとしては、伝統的な小麦輸入のほか93年には、石油及び自動車（いずれも約4億ドル）の輸入により両国間の貿易均衡を図る態勢にある。

このような情勢下でアルゼンチン政府は、貿易収支の改善を図る措置として輸入に際して課税されるTAXA DE ESTADÍSTICA（そもそも輸出入業務の統計事務費用として徴求する税）を従来の3%より10%に上げたが、これはメルコスールの協定方針に反するものであるとしてメンバー諸国の批判を受けた。中でもアルゼンチン輸出に多くを依存するパラグアイは、激しい批判を行っている。

メルコスールとの貿易状況

年 度	計		ブラジル		ウルグアイ		パラグアイ	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
1981	892	1.106	595	893	128	121	169	92
82	629	827	368	688	128	90	145	49
83	522	795	358	667	116	89	87	39
94	655	975	478	831	83	98	94	50
95	667	698	496	612	99	66	72	20
96	894	831	698	691	129	93	67	47
97	768	1.003	539	819	168	114	61	70
88	875	1.170	608	971	187	131	80	68
89	1.428	869	1.124	721	208	99	96	49
90	1.833	876	1.423	718	263	116	147	42
91※	1.975	1.796	1.487	1.518	310	235	178	43

出所：INDEC

二) 農業生産状況

国土区分

区 分	面積 1,000ha	比率 %
農 耕 地	21.454,2	10,55
牧畜地（森林の一部を含む）	160.461,8	78,91
天然森林地	9.007,3	4,43
植 林 地	720,1	0,35
小 農 場	57,1	0,03
浸 水 地 帯	2.652,3	1,30
利 用 不 適 地	8.640,4	4,25
そ の 他	352,1	0,18
計	203.345,3	100,00

出所：TENDENCIA ECONOMICA

主要農産物の生産状況

作物別	収穫面積 1,000ha			生産量 1,000t		
	88/99	89/90	90/91	88/99	89/90	90/91
穀類						
小麦	4.700	5.423	5.794	8.360	10.298	10.959
とうもろこし	1.520	1.603	1.901	4.620	5.250	7.689
ソルガム	597	710	676	1.360	2.040	2.252
大麦	134	172	143	318	382	323
米	105	116	86	498	439	348
からす麦	356	428	S/D	450	620	S/D
ライ麦	55	84	S/D	41	70	S/D
	26	49	S/D	30	65	S/D
アルピステ	59	61	S/D	59	55	S/D
小計	7.552	8.646	—	15.736	19.219	—
油脂原料作物						
大豆	4.903	4.984	4.754	625	10.800	10.736
ヒマワリ	2.157	2.732	2.301	3.100	3.800	4.034
亜麻	560	582	573	416	474	445
落花生	153	184	179	190	233	311
綿	524	534	634	619	789	782
小計	8.297	9.016	8.441	4.950	16.596	16.308
穀類計	15.849	17.662	—	20.686	35.815	—

出所：BOLSA DE CERALES, NUMERO ESTADISTICO 91

4・3 ウルグアイ

ウルグアイは、メルコスール構成国の中でもっとも解放的な国で、その数少ない経済政策は、安定しており、政府は民間の生産部門や商業部門に何らの干渉も行っていない。国内における外国資本による会社の設立は容易に出来、ドルは自由に流通し、資本の移転も又自由に行うことができる。外国の投資家は、ウルグアイ人と同等の取扱いを受け、経済行為に対する税金の種類も少ない。このような極めてリープな制度は、アルゼンチンとブラジルという南米の両大国に狭まれた小面積の国土の中で生きるための手段として、この両国の資本がより多く、ウルグアイを通過し、又ウルグアイに投資されることを狙った政策であろう。

気候は、温暖で土地の起伏は少なく、人口は約 300万人、その70%近くは、首都モンテ・ビデオ市に集中する。モンテ・ビデオの他パيسانドウ (PAISSANDU)、サルト (SALTO) 及びラ・ピエドラ (LA PIEDRA) などが主要都市である。文盲率は2%と低くラテン・アメリカの中では、教育普及度がもっとも高いレベルにあるが、総人口に占める経済人口の割合も又、42.5%と少なく、人口の33%は、退役軍人、退職官吏などで生産に従事していない。その数は、国内の労働力 1.4人に1人の割といわれており、その恩給支給が国の社会保障システムをおびやかすものとして大きな問題

とされている。

最近、時々発生しているもの、犯罪件数は少なく、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロやサン・パウロなどと比較すると治安は極めて良好であり、泥棒よけの鉄格子をつけた家は見当らない。統制が少ないだけにインフォーマルな経済活動が活発であり、モンテ・ビデオの中心街は、正式の商店と道路を利用する屋台の商店が共存している。

ウルグアイの中産階級は、生活費の上昇を訴えているが自動車の所有は、13,2人に1人、又466人に1人の医者が配置されており、1人年間の牛肉消費量は、70Kgと豊富である。

灌漑農業を主体とする農業部門に対する政府の補助はなく、最低保証価格もない。又、他の国で行われている価格調整を目指した政府によるストックの形式も行われていない。例外は牛乳だけで、その価格だけは政府の統制下にある。国内市場が狭小のため、輸出が積極的に行われているが、中でも肉類、かんきつ類、乳製品、米、玉ねぎ、木材等が重要輸出品目である。

国内の総生産高は、91年において56,3億ドルで、各経済部門の中では、サービス部門が圧倒的なウエイトを持つのも特徴であり、農業と工業がこれに続いている。政府の発表によると繊維、皮革、植林、野菜果実、食品工業及び観光の各部門が今後期待される部門であり、ラ・プラタ川の水路輸送に関連する投資がもっとも緊急を要する課題とされている。

外資に対する取扱いは非常に寛大であり、何等の制約もなく国内に会社を設立し、自由に輸出入業務を行い、国内の銀行にいかなる通貨を持ってしても預金することが出来る。外国への送金も又自由である。外国資本に対して何等の差別的措置はなく国内資本と同等の取扱いが行われる。

税制面では、個人に対する所得税の課税はなく、法人のみが利益の40%を所得税として徴税されるシステムとなっている。個人口座の銀行秘密は守られており、政府は為替も物価も統制していない。商取引に際しては、I V A (IMPOSTO SOBRE EL VALOR ANADIDO付加価値税) が課税されている。

国内には、更にフリー・ゾーンとしてコロニヤ及びヌエバ・パルメイラ (NUEVA PALMEIRA) があり、第3のフリー・ゾーンも準備中といわれている。これらのフリー・ゾーンでは、国内税の免税(輸出入にかかわる事前許可、事前の積立金等の必要はない)の恩典のほか国の独占事業も行われず、燃料なども国際価格で購入することができ、企業のコスト軽減を図ることも出来る。

#### ウルグアイ国の概要

1) 国土面積	177,000 Km <sup>2</sup>			
2) 人口	3,694 千人			
3) 経済指標				
イ) 国内総生産高	1991年	8,224 百万ドル		
	(工業部門 28%、農業部門 11%、サービス部門 61%)			
1人当り所得	2,836 ドル			
ロ) インフレ率 (%)				
	1989	1990	1991	1992
消費者物価指数	89,2	129,0	81,5	63,4
卸物価指数	80,7	120,7	68,6	55,8

ハ) 対外取引

ウルグアイ国の貿易収支

年 度	輸 出 FOB 100万ドル			輸 入 CIF 100万ドル			残 高 100万ドル
	伝統商品	非伝統商品	計	伝統商品	非伝統商品	計	
1986	402,7	685,1	1.087,8	140,3	729,3	870,0	217,8
87	392,5	789,8	1.182,3	154,6	987,3	1.141,9	40,4
88	539,1	865,5	1.404,5	112,2	1.064,8	1.176,9	227,6
89	593,0	1.005,8	1.598,8	138,8	1.064,0	1.202,8	396,0
90	623,8	1.692,9	1.692,9	175,3	1.167,7	1.342,9	350,0
91	470,7	1.604,7	1.604,7	206,9	1.429,6	1.636,5	(-)31,8

出所：BANCO CENTRAL DEL URUGUAY

輸 出 内 訳

品 目	1989	1990	1991
畜 産 物			
牛 肉	183,5	215,6	135,3
羊 肉	25,8	31,3	19,3
そ の 他	182,4	175,4	221,3
小 計	391,7	422,3	375,9
農 作 物			
米	87,2	102,0	115,8
そ の 他	80,7	90,2	91,6
小 計	167,9	192,2	207,4
農産加工品			
加 工 肉	13,4	16,5	18,6
そ の 他	35,3	50,0	52,0
小 計	48,7	66,5	70,6
鉱 産 物	6,6	5,4	28,5
プラスチック、ゴム、セルロース	45,9	49,6	43,2
皮 革 加 工 品	235,2	234,3	216,6
織 維 (主に羊毛)	485,0	486,8	430,7
靴、他製飾品	14,0	17,7	19,7
そ の 他	203,8	218,1	212,1
合 計	1.598,8	1.692,9	1.604,7

出所：BANCO CENTRAL DEL URUGUAY

輸入内訳

品 目	1989	1990	1991
消費財			
食品及び飲料水	31,8	46,3	53,1
耐久消費財	78,5	94,4	130,3
その他	45,2	59,2	87,0
小 計	155,5	199,9	270,4
資本財			
機械器具	138,7	158,8	242,4
輸送機器	17,7	20,3	24,5
小 計	156,4	179,1	266,9
中間財			
石油及び副産物	197,3	202,2	238,9
機械部品	21,8	24,1	25,7
食品飲料原料	42,4	42,7	58,4
自動車部品	84,9	100,4	125,7
基礎工業材料	535,3	583,3	634,8
その他	9,2	11,2	15,7
小 計	890,9	963,9	1.099,2
合 計	1.202,8	1.342,9	1.636,5

出所：BANCO CENTRAL DEL URUGUAY

4) 農業部門

農業センサスのデータ

項 目	1980	1986	1990
農地面積 1.000 ha	16.024,7	15.627,8	15.681,8
農 場 数	68.362	57.354	54.819
1農場平均面積 (ha)	286	272	286
農業労働者			
家族労働	102.039	86.770	86.337
雇用労働	57.407	54.924	54.924
計	159.446	141.261	141.261
トラクター数	32.878	32.641	32.641
トラクター1台当り平均面積 (ha)	487	480	480

出所：CENSO AGROPECUARIO 1990

## 農地面積の内訳

内 訳	1986	1990	
	1,000 ha	1,000 ha	%
穀類及び工業原料作物	702,2	597,0	3,8
造成牧場	533,2	651,8	4,2
植林地	166,1	176,2	1,1
野菜園	49,5	40,3	0,3
かんきつ園	15,1	20,8	0,1
おとう園	13,1	12,0	0,005
その他の果実園	12,1	12,0	0,005
天然牧場外	14.141,5	14.171,7	90,4
計	15.627,8	15.681,8	100,0

出所：CENSO AGROPECUARIO 1990

## 牧畜部門

1,000頭

内 訳	1980	1986	1990
	成牛(雄)	10.658,3	8.921,7
〃(雌)	4.401,9	3.606,4	3.052,2
成牛(3才以上)	704,0	729,2	857,9
〃(2才以上)	1.400,8	575,5	672,6
乳牛	669,8	645,7	657,7
羊	18.652,7	22.034,0	23.667,2
山羊	9.691,9	10.675,3	11.018,9
豚	5.867,3	4.449,0	5.060,5

出所：CENSO AGROPECUARIO 1990

## 4・4 バラグアイ

バラグアイ国は、国の中央を流れるバラグアイ川を挟んで東西の両地方によって構成されており、東部を開発地帯、通称、チャコ地方と呼ばれている西部を全くの未開発地帯としている。国土面積406,17千Km<sup>2</sup>の中、40%が東部、60%が西部の割合である。

1991年度の推定人口は4.4百万人で、人口密度は、全国を平均すると1人/Km<sup>2</sup>であるが、人口の98%は東部地方に集中しているため、広大な西部地方の人口密度は0,2人/Km<sup>2</sup>とほとんど無人地帯である。

国内の経済を支える農牧部門は、国内生産高の26.7% (1991年) を占め、サービス部門の内、商業金融部門の26,9%と共に生産高形成にもっとも大きな比率を占めており、工業部門が15,9%の比率でこれに続いている。たゞしこれは、あくまで公式のデータであり、インフォーマル経済の動きは、年間10億ドルといわれている程、非合法活動の盛んな国でもある。

国の貿易は、大豆と綿によって代表される数少ない輸出に対し、資本財、燃料、中間財の殆んどを輸



入に依存しているため貿易赤字が続いており、1987年以降91年までの6ヶ年をみても出超を記録したのは、1989年のみであとはすべて入超の連続であった。中でも91年における5.4億ドルの貿易赤字を最高としている。

国内経済の低位成長（90年 3.1%、91年 2.5%）と共に物価も比較的安定しており、過去4ヶ年間に於ける消費者物価指数は、1990年の40%を最高とし他は、30%以下、91年も19.8%に止まっている。為替は、単一活動レートが採用されており、89年以降大きな変動は見られない。政府は財政赤字の解消を図る線です、んでおり、91年にPIB（国内総生産）の0.2%に相当した財政収支の赤字もその大半が国内資金によって融資されている。金利は、金融市場において自由に設定されており、中央銀行の介入はない。又、現政府の税制改革により従来50種に及んでいた税金が4種に減少されており、輸入税は、生産資財に対して3%、資本財5%、その他の財10%、自動車15~20%の4種に分類されている。

経済開発のための投資を促進するため法律60/90が設定されており、所得税の95%を5ヶ年間免除する措置がとられている。これらを総合する場合、投資環境は、極めて良好な条件下にあるといえる。

#### パラグアイ国の概要

1) 国土面積		4 0 6 . 7 5 2 Km <sup>2</sup>
東部地方		( 1 5 9 . 8 2 7 ♪ )
西部地方		( 2 4 6 . 9 2 5 ♪ )
国境線	アルゼンチン	1 . 7 1 1 km
	ブラジル	9 4 5 ♪
	ボリビア	7 6 9 ♪
	計	3 . 4 2 5 ♪
主要河川	パラグアイ川	1 . 0 1 6 , 6 km
	ピルコマジョ川	8 3 5 , 0 ♪
	パラナ川	8 3 0 , 0 ♪
	コンフーン川	5 5 0 , 0 ♪
2) 人口 (1991年推定)		4 . 4 百万人
人口密度		1 1 人/Km <sup>2</sup>
経済活動人口		1 . 6 9 6 千人 (42%)
文盲率		1 5 %
都市人口		4 8 %
3) 経済指標		
イ) 国内総生産高 1991年度		5 . 6 9 2 百万ドル
♪ 成長率 90/91		2 , 5 %
1人当り所得		1 , 2 9 4 ドル

国内総生産（PIB）の部門別構成比率と成長率 100万G（1982年ベース）

部 門 別	1989	1990	1991	構成比 %	91/90 成長率
1.農牧部門					
農 業	157.610	159.082	152.080	16,0	- 4,4
牧 畜	66.643	69.847	74.108	7,8	6,1
林 業	24.346	25.201	26.319	2,8	4,4
漁 業	1.225	1.255	1.285	0,1	2,4
小計	249.827	255.385	253.792	26,7	- 0,6
2.工 鉱 業					
鉱 業	4.147	4.300	4.515	0,5	5,0
工 業	145.410	149.045	150.684	15,9	1,1
建 築	48.936	48.486	49.940	5,3	3,0
小計	198.493	201.831	205.139	21,8	1,6
財の生産部門計	448.320	457.216	458.931	48,3	0,4
3.基礎サービス					
電 力	22.732	25.960	28.686	3,0	10,5
水及び基礎衛生	3.583	3.974	4.028	0,4	1,3
輸送通信	41.028	42.546	44.673	4,7	5,0
小計	67.343	72.480	77.385	8,1	6,8
4.その他のサービス					
商業金融	236.136	244.732	255.425	26,9	4,4
政府関係	40.594	91.774	43.027	4,5	3,0
住 宅	23.541	24.100	24.944	2,6	3,5
その他	83.568	87.015	90.496	9,5	4,0
小計	383.837	397.621	413.892	43,6	4,1
サービス部門計	451.180	470.101	491.277	51,7	4,5
合 計	899.500	927.317	950.208	100,0	2,5

出所：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY

過去5ヶ年間の経済成長率 (%)

年 度	1987	1988	1989	1990	1991
成長率	4,3	6,2	5,8	3,1	2,5

ロ) 為替

為替レート

年 度	公定レート	自由レート
1985	240	660
1986	320	660
1987	320	880
1988	400	1.035
1989	--	1.218
1990	--	1.258
1991	--	1.323

ハ) 外貨保有高

パラグアイ中央銀行の純保有高

年 度	100万ドル
1986	369,1
1987	414,9
1988	278,6
1989	427,9
1990	676,3
1991	978,0

出所：BANCO CENTRAL DEL PARAGUAY

ニ) 対外取引

貿易収支

パラグアイ国の輸出入推移

100万ドル

年 度	輸 出	輸 入	収 支 残
1985	303,9	442,3	- 138,4
1986	232,5	509,4	- 276,8
1987	353,4	517,5	- 164,1
1988	509,8	494,7	15,1
1989	1.009,4	660,8	348,7
1990	958,7	1.193,4	- 234,7
1991	737,1	1.275,4	- 538,3

出所：BOLETIM ESTADISTICA

パラグアイの主要輸出品目

100万ドル

品目別	1989	1990	1991
綿織維	306,9	332,9	318,9
大豆	383,0	267,4	157,1
加工肉	96,1	133,7	55,2
木材	31,6	37,7	44,4
皮革	24,0	27,8	28,3
エッセンス・油	24,7	25,1	19,4
コーヒー	40,3	20,5	8,2
穀類 粕	10,5	16,4	31,3
植物油	16,6	13,2	24,4
煙草	2,2	5,7	7,6
ハツカ	6,7	5,3	4,7
その他	67,0	72,8	39,6
計	1.009,5	958,7	737,1

出所：BOLETIM ESTADISTICO

パラグアイの主要輸出先国

100万ドル

輸出先国	1989	1990	1991
オランダ	186,9	146,6	109,6
ブラジル	328,5	312,3	203,1
アルゼンチン	49,0	55,5	45,1
スイス	73,8	50,1	35,2
米国	89,7	39,4	34,2
ドイツ	23,3	44,5	36,7
イタリア	24,1	25,9	39,3
ベルギー	35,7	22,2	7,5
ウルグアイ	10,6	11,6	11,3
スペイン	21,1	14,5	13,2
フランス	7,6	10,9	11,2
英国	5,3	5,2	3,8
その他	153,9	220,2	187,3
計	1.009,5	958,7	737,1

出所：BOLETIM ESTADISTICA

パラグアイの主要輸入品目

100万ドル

品 目 別	1989	1990	1991
機 械 器 具	211,6	470,4	426,9
燃 料 油 脂	115,0	146,3	129,7
輸 送 機 器	61,7	103,4	153,1
飲料及び煙草	45,5	72,3	111,4
化学製品及び薬品	42,5	80,0	79,4
鉄 加 工 品	19,7	53,3	48,3
紙及び加工品	19,8	31,0	38,4
金 属 製 品	17,8	21,7	26,5
食 品 類	12,0	14,5	12,0
農 業 機 械	7,6	11,7	16,9
そ の 他	107,6	188,8	232,8
計	660,8	1.193,4	1.275,4

出所：BOLETIM ESTADISTICA

パラグアイの主要輸入先国

100万ドル

輸 入 先 国	1989	1990	1991
ブ ラ ジ ル	177,2	207,3	234,3
日 本	82,1	187,3	164,6
アルゼンチン	67,8	151,2	152,3
米 国	93,8	146,8	185,5
ド イ ツ	29,1	59,8	54,4
アルジェリア	49,7	53,6	38,5
英 国	26,9	47,1	56,6
フ ラ ン ス	9,8	33,2	20,6
イ タ リ ー	5,7	22,7	31,1
オ ラ ン ダ	—	10,0	7,0
ウルグアイ	6,5	8,9	10,3
ス イ ス	6,1	8,7	9,1
ス ペ イ ン	4,3	5,3	8,7
ベルギー	6,1	2,4	3,7
ス ェ ー デ ン	1,5	2,2	3,8
そ の 他	94,2	247,3	294,9
計	660,8	1.193,4	1.275,4

出所：BOLETIM ESTADISTICO

パラグアイの工業生産

1,000 t

品 目	1989	1990	1991
冷凍牛肉	73,0	94,5	39,5
砂糖	122,6	103,7	134,3
精米	55,9	54,8	57,6
小麦粉	117,4	96,5	149,4
バルミット	1,2	1,2	3,2
植物油	50,7	49,6	64,9
ベチット・グレイン	0,3	0,3	0,3
ハツカ	0,4	0,4	0,3
穀物粕	453,1	468,3	587,9
綿織維	207,9	218,4	203,6
木材	662,8	970,3	749,0
セメント	336,3	343,6	336,8

出所：MINISTERIO DE INDUSTRIA E COMERCIO

パラグアイの電力消費量

年 度	100万KWh
1987	1.320
88	1.770
89	1.607
90	2.042
91	2.175

出所：SECRETARIA TECNICA DE PLANIFICACION

ホ) 物価

パラグアイ物価指数

(%)

項 目	1988	1989	1990	1991
消費者物価指数	16,9	28,5	44,1	19,8
食 品	9,8	22,4	53,1	6,7
住 居	24,6	35,7	37,4	14,9
衣 料	19,9	29,8	36,0	14,7
そ の 他	23,3	32,8	28,4	16,8
卸物価指数	33,7	26,1	67,2	12,4
労働者賃金指数	32,4	27,0	42,2	15,1

出所：SECRETARIA TECNICA DE PLANIFICACION

4) 農業部門

農場数及び農地面積 (農業センサス)

区 分	1981	1991
農 場 数 (1,000)		
東 部 地 方	243,9	300,5
チャコ 地 方	5,0	6,7
計	248,9	307,2
農地面積 (1,000ha)		
東 部 地 方	10.328,2	11.428,7
チャコ 地 方	11.612,3	12.389,0
計	21.940,5	23.817,7

出所：CENSO AGROPECUARIO

農 地 区 分

1,000ha

区 分	東部地方	チャコ地方	計
単 年 作 物	1.534,1	42,7	1.576,8
飼 料 作 物	1.472,2	843,5	2.315,7
永 年 作 物	82,1	3,1	85,2
休 閑 地	494,3	79,0	573,3
天 然 牧 場	4.794,1	5.462,0	10.256,1
造成牧場及び天然森林	2.321,4	5.506,0	7.818,4
そ の 他	739,5	452,7	1.192,2
計	11.428,7	12.389,0	23.817,7

出所：CENSO AGROPECUARIO

主要作物の生産状況

作物別	収穫面積 1,000ha			生産量 100万 t		
	87/88	88/89	89/90	87/88	88/89	89/90
穀 類						
米 (水田)	15	16	16	56,9	64,4	57,1
米 (稲田)	18	17	18	24,5	23,0	28,6
とうもろこし	486	500	518	960,6	1.004,0	1.138,9
ソルガム	22	22	23	29,5	30,3	28,6
小 麦	192	248	226	318,4	524,0	432,3
小 計	738	803	801	1.389,9	1.645,7	1.685,5
油脂原料作物						

大豆	766	851	900	1,407,4	1,614,6	1,790,6
綿	403	438	509	543,2	630,2	642,7
ヒマワリ	4	4	4	4,1	4,2	4,4
落花生	42	39	38	44,6	41,7	40,9
ヒマ	36	36	33	40,2	41,1	36,9
小計	1.251	1.368	1.484	2.039,5	2.331,8	2.519,5
穀類計	1.989	2.171	2.285	3.429,4	3.977,5	4.205,0
その他の作物						
砂糖キビ	53	58	47	2.668,2	2.868,7	2.256,1
マンジョカ	230	234	240	3.890,9	3.978,3	3.549,9
さつまいも	14	14	11	112,7	105,9	84,7
ポロット	55	52	46	48,8	45,7	39,0
ハッカ	12	12	11	49,0	38,0	39,8

出所：ESTIMACION DE LA PRODUCCION AGROPECUARIA

#### 牧畜部門 (飼育数)

種類	1988	1989	1990
牛 (1,000頭)	7.779,6	8.073,6	8.253,9
豚 (1,000頭)	2.108,0	2.305,0	2.444,0
馬 (1,000頭)	328,0	334,0	334,0
羊 (1,000頭)	430,0	449,0	456,0
とり類 (1,000羽)	—	—	17.044,0

出所：ESTIMACION DE LA PRODUCCION AGROPECUARIA

#### 4・5 ブラジル

面積、人口、国内生産高、貿易額のいづれにおいても協定4ヶ国の中では最大の規模を有する反面、インフレ率は、他の3ヶ国が年間最高60%程度の比較的安定した物価上昇率を示しているのに対して、1,000%を越す超インフレ国であり、文盲率も4ヶ国の中では桁外れに大きく、外債は世界最大のレベルにある。所得の配分は極度に悪く国内の経済活動が南東、南部地方に集中し、こゝに約3,500億ドルと推定される国内生産高の50%が集中するのに対し、北部、東北部の開発は遅れており、中でも極度の乾燥地帯を持つ東北地方の農村地帯には貧困の状態を続けているところが多い。総じて65百万人と推定される国内経済人口の半分以上は最低給料の2ヶ月分で生活を支えている状況にあるが、その最低給料も協定4ヶ国の中でもっとも低く、1月分の金額はドルに換算して70ドルに満たぬ状況にある。

国内の生産分野では農業部門において年間70百万トンの穀類生産を行う態勢にあるほか、伝統的なコーヒー、ココア及び砂糖や新しい分野としてプロアルコール(国家アルコール計画)に支えられた砂糖キビ、濃縮オレンジ・ジュースの原料としてのオレンジ生産では、世界最大の規模を持っている。

工業分野は多様化されており、各部門に先端の技術が導入されているが、中でも石油、石油化学、自



動車、鉱業、飲料水及び煙草、公共サービス、食品及び情報機器分野に大企業が集中する。

地下資源は豊富であり、鉄鉱石においてミナス・ジェライス州にある鉱山のほか、60年代にはアマゾン森林の中に世界最大級のカラジャス鉱山が発見され、70年代を通じて開発された事と80年代の中期には、大西洋の港に通じる約900kmの鉄道が敷設され、年間35百万トンの輸出が行われている。

エネルギー分野では、石油に代表される地下資源のエネルギーと水力発電を中心とする再生可能なエネルギーの2種のエネルギーがあり、前者が4分の1、後者が4分の3の比率で生産が行われている。石油の国内生産量は、91年において1日当たり、640千バレルに達しているが、依然として1日当たり507千バレルの搬入が維持しており、その自給率は54%を越えている。

国内経済は80年代を通じてリセッション傾向を続けたが、90年に発足したコーロル政権下で加速化し、国内の購買力は約40%低下したといわれており、これに加えたインフレの昇進から事態は最悪の状況にある。

#### ブラジルの一般概況

1) 面積	8,511,996.3 Km <sup>2</sup>			
	北部地方	45,25 %	( 3,851.6 Km <sup>2</sup> )	
	東北地方	18,28 %	( 1,556.0 % )	
	中西部地方	18,86 %	( 1,604.8 % )	
	南東部地方	10,85 %	( 924.3 % )	
	南部地方	6,76 %	( 575.3 % )	
海岸線		7,367 Km	コロンビア	1,644 Km
国境線	ウルグアイ	1,003 %	ベネズエラ	1,495 %
	アルゼンチン	1,263 %	ギアナ	1,606 %
	パラグアイ	1,339 %	スリナム	593 %
	ボリビア	3,126 %	ギアナフランス	655 %
	ペルー	2,995 %		
2) 人口	1980年センサス	121,286 千人		
	1991年センサス	145,823 %		
	2000年 予想	180,000 %		

#### 地方別人口及び人口密度 (1991年センサス)

	1,000人	人/Km <sup>2</sup>
北部地方	10,104,7	2,62
東北地方	42,230,8	27,14
中西部地方	9,410,1	5,86
南東地方	62,028,6	67,11
南部地方	22,048,9	38,32
計	145,823,1	17,13

主要都市人口 (1991年センサス) 100万以上の都市 1,000人

サン・パウロ	10,099,1
リオ・デ・ジャネイロ	5,615,1
ベロ・オリゾンテ	2,122,1
ブラジリア	1,576,7
ポルト・アレグレ	1,275,5
レシーフェ	1,289,6
サルバドール	1,811,4
ベレン	1,120,8
クリチーバ	1,285,0
フォルタレーザ	1,588,7

3) 経済指標

イ) 国内総生産

ブラジルの国内総生産高 (PIB)

年 度	PIB 100万ドル	1980=100の 実質指数	推定人口 1,000人	1人当り所得	1980=100の 指数
1980	223,088	100,0	121,3	1,839	100
81	234,209	95,6	124,9	1,887	93,5
82	250,397	96,2	126,9	1,973	91,9
83	251,429	92,9	129,8	1,937	86,9
84	274,436	97,8	132,7	2,068	89,4
85	305,626	105,6	135,6	2,254	94,4
86	337,832	113,6	138,5	2,439	99,4
87	360,810	117,7	141,5	2,550	100,9
88	371,999	117,6	144,4	2,575	98,7
89	399,647	121,4	147,4	2,711	99,9
90	398,747	116,5	150,4	2,651	94,0
91	418,270	117,6	153,4	2,726	93,0

出所: BANCO CENTRAL

部門別成長率 (ブラジル)

(%)

部 門 別	1987	1988	1989	1990	1991
農業部門	14,9	0,9	2,5	- 3,7	2,6
工業部門	1,1	- 2,6	2,9	- 8,0	- 0,8
鉱業	- 0,8	0,4	4,0	2,7	0,3
製造業	1,0	- 3,4	2,9	- 9,5	- 0,7
建築	1,1	- 3,0	3,3	- 8,4	- 4,0
公共事業サービス	3,3	5,8	1,6	1,8	4,3

サービス部門	3,3	2,3	3,9	- 0,7	2,0
商 業	2,5	- 2,7	3,0	- 6,4	1,2
輸 送	4,6	4,2	3,8	- 3,1	2,5
通 信	9,1	10,6	19,2	9,0	19,6
金 融	- 4,1	0,3	1,4	- 3,1	- 8,0
公共部門	2,1	2,1	2,1	2,1	2,1
平 均	3,6	- 0,1	3,3	- 4,0	0,9

出所：BANCO CENTRAL

ロ) 物価指数

消費者物価指数 (ブラジル)

年 月	総物価指数 (IGP)			消費者物価指数 (INPC)		
	月当り	年 間	過去12ヶ月間	月当り	年 間	過去12ヶ月間
1991 1月	19,9	19,9	1.000,0	21,0	21,0	1.111,9
2	21,1	45,2	676,0	20,2	45,4	737,2
3	7,2	55,8	359,0	11,8	62,5	413,7
4	8,7	69,4	348,3	5,0	70,7	370,4
5	6,5	80,4	337,8	6,7	82,1	367,7
6	9,9	98,2	341,2	10,8	101,8	364,3
7	12,8	123,7	340,6	12,1	126,3	362,3
8	15,5	158,3	350,6	15,6	161,6	376,5
9	16,2	200,1	368,6	15,6	202,5	382,2
10	25,8	277,7	416,6	21,1	266,2	410,2
11	25,8	375,0	473,2	26,5	363,2	451,9
12	22,1	480,2	480,2	24,2	475,1	475,1
1992 1	26,8	26,8	513,6	25,9	25,9	698,7
2	24,8	58,3	532,3	24,5	56,8	521,0
3	20,7	91,1	611,6	21,6	90,6	574,6
4	18,5	126,5	625,8	20,8	130,4	676,3
5	22,5	177,3	791,7	24,5	186,8	806,0
6	21,4	236,7	885,5	20,9	246,6	887,9
7	21,7	309,8	962,9	22,1	222,1	975,4
8	25,5	414,4	1.055,4	22,4	417,8	1.038,3
9	27,4	555,2	1.116,6	23,9	542,0	1.120,6
10	24,9	718,6	1.157,4	26,1	709,4	1.170,9
11	24,2	916,9	1.142,0	22,9	894,6	1.134,8
12	23,7	1.157,9	1.157,9	22,6	1.149,1	1.149,1

出所：IBGE FGV

## ハ) 対外取引

## 貿易収支 (ブラジル)

100万ドル

年 度	輸 出 FOB	輸 入 FOB	残 高
1981	23.293	22.051	1.202
82	20.175	19.397	778
83	21.899	15.429	6.470
84	27.005	13.916	13.089
85	25.639	13.153	12.486
86	22.393	14.044	8.349
87	26.224	15.052	11.172
88	23.789	14.605	19.184
89	34.383	18.263	16.120
90	31.414	20.362	11.052
91	31.621	21.017	10.604

出所: CACEX DECEX

## 主要輸出品目 (ブラジル)

品 目	重 量 1,000t		金 額 100万ドル	
	1990	1991	1990	1991
基礎製品				
鉄 鉱 石	113.407	113.301	2.407	2.600
大 豆 粕	8.744	7.489	1.610	1.369
コ ー ヒ ー	853	1,095	1.106	1.382
大 豆 (豆)	4.077	2.020	910	448
煙 草 葉	156	148	551	654
そ の 他	10.976	11.427	2.162	2.285
小 計	138.303	135.480	8.746	8.738
工業製品				
半製品				
アルミ粗金	545	757	875	986
鉄鋼半製品	3.404	4.323	753	952
完成品				
機械器具	503	2,480	483	2,590
輸送機器	395	2,146	395	2,136
鉄鋼製品	3,920	4,280	1,644	1,914
靴及び部品	71	65	1,184	1,245
濃縮 レゾ、ジュース	954	914	1,468	900

その他	18.781	15.236	15.317	11.826
小計	28.573	30.201	22.119	22.449
その他	1.219	1.237	549	434
合計	168.095	166.918	31.414	31.621

出所：BANCO CENTRAL

主要輸入品目 (ブラジル)

品目	重 量 1,000t		金 額 100万ドル	
	1990	1991	1990	1991
消費財				
食糧品	1.763	1.627	1.379	1.275
衣料品	29	35	320	358
その他	21	26	1.090	1.157
小計	1.813	1.688	2.789	2.790
原材料				
小麦	1.962	4.672	295	455
肥料	3.007	3.494	319	376
化学製品	2.404	2.882	2.631	2.832
木材パルプ・セルローズ	407	481	394	445
プラスチック及びゴム	277	351	668	740
鑄鉄	337	286	373	335
非鉄金属	130	163	412	433
その他	4.717	5.905	1.485	1.811
小計	3.241	18.234	6.577	7.427
燃料油脂				
石油及び副産物	30.809	29.616	4.734	4.061
その他	11.090	13.298	629	777
小計	41.889	42.914	5.363	4.838
資本財				
輸送機器	49	84	756	994
機械電気製品	210	215	5.176	4.968
合計	57.212	63.135	20.661	21.017

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

貿易相手国 (ブラジル)

国 別	1990			1991		
	輸 出	輸 入	残	輸 出	輸 入	残
米 国	7.675	4.412	3.263	6.285	4.974	1.311
E C						
ド イ ツ	1.788	1.754	34	2.102	1.902	200
オランダ	2.495	336	2.159	2.135	349	1.786
イタリー	1.596	649	947	1.348	792	556
英 国	945	416	529	1.056	446	610
フランス	902	573	329	863	606	257
ベルギー	980	168	812	1.084	213	871
スペイン	704	211	493	706	223	483
そ の 他	442	125	317	479	148	331
小 計	9.852	4.232	5.620	9.773	4.679	5.094
ALADI						
アルゼンチン	639	1.412	- 773	1.467	1.615	- 139
チ リ ー	484	485	- 1	672	494	178
メキシコ	505	190	315	750	204	546
パラグアイ	379	330	49	491	220	271
ウルグアイ	295	585	- 290	336	434	- 98
そ の 他	490	195	295	633	193	440
小 計	2.792	3.197	- 405	4.358	3.160	1.198
日 本	2.350	1.247	1.103	2.568	1.213	1.355
OPEC	1.798	4.431	-2.633	1.953	3.512	-1.559
そ の 他	6.940	3.142	3.798	6.684	3.479	3.205
合 計	31.414	20.661	10.753	31.621	21.017	10.604

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

4) 農業部門の状況

ブラジルの農牧センサス・データ

内 訳	1975	1980	1985
農 場 数	4.993,3	5.159,9	5.801,8
農地面積	323.896,1	364.854,4	374.924,9
農耕地面積			
永年作物	8.385,4	10.472,1	9.903,5
単年作物	31.615,9	38.632,1	42.244,2
小 計	40.001,3	49.104,2	52.147,7
農業労働力	20.345,7	21.163,7	23.394,9

トラクター台数 1,000台		323,1	545,2	665,3
家畜数				
牛	1,000頭	101.673,7	118.085,9	128.174,5
羊	◇	17.486,5	17.950,9	16.148,0
豚	◇	35.151,7	32.628,7	30.481,3
山羊	◇	6.709,4	7.908,1	8.207,9
鶏	◇羽	286.810,2	413.179,6	436.808,8

出所：IBGE

主要農産物の生産状況

作物別	収穫面積 1,000 ha			生産量 1,000t		
	1989	1990	1991	1989	1990	1991
穀類						
とうもろこし	12.931,8	11.394,3	13.109,8	26.572,6	21.347,8	23.739,0
米	5.250,1	3.946,7	4.127,3	11.044,5	7.420,9	9.495,9
小麦	3.281,4	2.681,0	1.994,8	5.552,8	3.093,8	2.921,3
フェイジョン	5.181,0	4.680,1	5.442,9	2.310,5	2.234,5	2.749,4
ソルガム	164,6	137,8	171,8	241,1	236,2	254,5
大麦	113,4	105,1	97,1	248,2	157,4	110,5
からす麦	203,8	193,2	263,4	235,9	177,8	228,3
ライ麦	3,9	4,4	5,2	4,0	4,5	6,3
小計						
油脂作物						
大豆	12.211,2	11.487,3	9.618,3	24.071,4	19.897,8	14.938,1
綿(草綿)	1.505,8	1.391,9	1.484,1	1.813,4	1.783,2	2.037,8
綿(木綿)	618,6	511,7	345,4	47,1	38,2	38,6
落花生	85,5	83,6	88,2	151,1	138,3	138,9
ヒマ	269,1	286,7	232,8	124,6	148,0	129,2
小計						
穀類計						
その他						
砂糖キビ	4.075,8	4.272,6	4.210,9	252.642,6	262.674,1	260.838,8
マンジョカ	1.880,8	1.937,6	1.943,1	23.668,5	24.322,1	24.530,8
コーヒー	3.026,5	2.908,9	2.767,4	3.059,7	2.929,7	3.050,6
ココア	660,0	664,8	667,0	392,6	356,2	320,5
オレンジ※	882,6	913,0	980,8	89.016,2	87.602,6	94.512,3
ジャガイモ	156,8	158,3	160,9	2.132,3	2.233,7	2.264,8

出所：IBGE-LSPA

※オレンジの生産量は 100万個

ブラジルの対メルコスール貿易収支

1989年(1-12月)

100万ドル

国 別	ブラジルの輸出	ブラジルの輸入	収 支
アルゼンチン	722,1	1.229,0	- 516,9
パラグアイ	322,9	358,8	- 35,9
ウルグアイ	334,7	595,9	- 261,2
小 計	1.379,7	2.193,7	- 814,0
ブラジルの輸出入総額	34.382,6	18.263,2	16.119,4
ブラジルの輸出入に占めた メルコスールの比率 (%)	4,0	12,0	-

1990年(1-12月)

国 別	ブラジルの輸出	ブラジルの輸入	収 支
アルゼンチン	645,1	1.399,7	- 754,6
パラグアイ	380,5	332,8	47,8
ウルグアイ	294,6	587,1	- 292,5
小 計	1.320,2	2.319,5	- 999,3
ブラジルの輸出入総額	31.413,8	20.600,4	10.752,4
ブラジルの輸出入に占めた メルコスールの比率 (%)	4,2	11,2	-

1991年(1-12月)

国 別	ブラジルの輸出	ブラジルの輸入	収 支
アルゼンチン	1.475,5	1.614,7	- 139,2
パラグアイ	496,2	219,5	276,5
ウルグアイ	337,1	434,1	- 97,0
小 計	2.308,8	2.268,3	40,5
ブラジルの輸出入総額	31.624,6	21.010,00	10.614,6
ブラジルの輸出入に占めた メルコスールの比率 (%)	7,3	10,8	-



1991年上半期 (1-6月)

国 別	ブラジルの輸出	ブラジルの輸入	収 支
アルゼンチン	521,3	722,5	- 201,2
パラグアイ	233,4	69,9	163,5
ウルグアイ	168,6	221,3	- 52,7
小 計	923,3	1.013,7	- 90,4
ブラジルの輸出入総額	16.559,4	9,364,0	7.195,4
ブラジルの輸出入に占めた メルコスールの比率 (%)	5,6	12,8	-

1992年上半期 (1-6月)

国 別	ブラジルの輸出	ブラジルの輸入	収 支
アルゼンチン	1.260,9	657,3	603,6
パラグアイ	217,1	121,9	115,2
ウルグアイ	168,1	144,6	23,5
小 計	1.646,1	903,8	742,3
ブラジルの輸出入総額	16.908,1	9,366,0	7.542,1
ブラジルの輸出入に占めた メルコスールの比率 (%)	9,7	9,6	-

以上の出所：DECEX

メルコスールに対するブラジルの貿易は、輸出入共、総額の10%に満たぬ程度であるが、こゝ数年間大きな変化を示しており、輸出面では、1989年における4,01%のシェアを1992年上半期には、9,74%へと増加した。これに対しブラジルの輸入は、減少傾向にあり、89年に輸入総額の12,01%を占めていたシェアは、92年上半期にいたって9,65%へと減少している。

ブラジルの貿易に占めたメルコスールの比率 (%)

年 度	輸 出		輸 入	
	メルコスール	中アルゼンチンのみ	メルコスール	中アルゼンチンのみ
1989	4,01	2,10	12,01	6,73
1990	4,20	2,05	11,23	6,77
1991	7,30	4,73	10,80	7,68
1992 (上半期)	9,74	7,46	9,65	7,02

出所：DECEX

上表にみられるブラジルの対メルコスール貿易の中、輸出面にみられる根本的な変化は、対アルゼンチン貿易の変化にもとづいている。すなわちブラジルの対アルゼンチン貿易は、伝統的にブラジルの入超が続き、最近数年間においても1989年にブラジルの入超 516,9百万ドル、翌1990年には、更に増加してその貿易赤字を 754,6百万ドルへと拡大していたが、1991年よりこの傾向は、逆行し始め、同年の赤字は 139,2百万ドルと減少、92年に入ると一変してブラジルの出超となり、上半期だけで 630,5百万ドルの黒字残高を記録するにいたっている。いまだ予備的な数字ではあるが、年間を通じた対アルゼンチン輸出は、前年を実に 100%上回る 3,069百万ドルに達した模様であり、その貿易収支残高は、10億ドルを越したものと推定されている。この結果、アルゼンチンは米国に次ぐ輸出先市場となっている。

最近顕著に伸びている対アルゼンチン輸出は、91年4月以降、同国のインフレ抑制及び経済成長のための政策として採用されたペソの対米ドル平価を1:1に維持する、いわゆるカバーロ・プランにもとづくもので、この政策の続行がペソを過大評価させることとなり、アルゼンチン製品を極度に高価なものとした反面、安いブラジル製品が大量に流入した結果にもとづくものであった。ブラジルの対アルゼンチン輸出では自動車の輸出増加がとくに大きく、92年中に前年比54%増の輸出を行っており、全体の輸出増加に大きな影響を与えている。対アルゼンチン輸出に占めた自動車を含む輸送機器の比率は91年において17,6%、91年上半期は29,5%へと増大している。

ブラジルがアルゼンチンに輸出している商品としては、輸送機器のほか機械器具（91年の比率 18,51%）とくに工作機械類、化学工業用製品（16,52%）とくに有機化学製品、及びプラスチック製品、金属製品（12,35%）、セルローズ及び紙（5,87%）、鉱産物（7,27%）等が大きな比率を占める項目である。これらに対して農作物（コーヒー、パイナップル、バナナ等）は、90年において全体の3,76%、91年では、3,85%、畜産物の輸出は1%に満たない状況にある。

アルゼンチンを除く他の2ヶ国（パラグアイ及びウルグアイ）の場合も、アルゼンチン程大きな変化はないがほぼ同様の傾向を辿っており、対パラグアイ貿易では、1989年にブラジルの入超35,9百万ドルが記録されたあと、91年以降出超が続き、91年にいたって 276,7百万ドル、92年上半期も 115,2百万ドルの黒字残高を残している。対パラグアイ輸出では、工作機械類の輸出（91年で全体の 18,47%）がもっとも大きく食品、食料及びタバコ（14,09%）、化学工業製品（12,54%）、繊維及び加工品（12,51%）等が大きな項目となっている。パラグアイに対する輸送機器の輸出は、全体の6,95%に止まっているが、大量の密輸が行われているところから実際の動きは、公式統計とは根本的に異なるものとなる。そのことは、無数の商人がかつぎ込むその他の商品（主に一般雑貨、食品、繊維製品、靴等）においてもいえることであり、ことパラグアイに限り政府の統計は“正式に税関を通過した公式のデータでは”というに止まる。

メルコスール市場の中でブラジルの入超が続いている唯一の国は、ウルグアイで89年が(-)261,2百万ドル、1990年(-)292,5百万ドル、1991年(-) 97,0百万ドルと続いており、1992年は、上半期において出超、23,5百万ドルに変化したもの、金額は少額であり、よい傾向といえるものではない。

対ウルグアイ輸出では、輸送機器が圧倒的に大きく、輸出全体に占めた比率は、90年が 22,09%、91年が 23,13%、92年が上半期で27,3%であった。これに続いて化学工業製品（91年の比率19,99%）、工作機械類（15,45%）、農作物（7,83%）、金属製品（9,48%）等が大きな項目であった。

以上に示した過去の実績にみられる通り、メルコスール国内を対象とする限りにおいてブラジルは、輸送機器、機械器具、化学製品の輸出が圧倒的に大きく、農産物輸出は少量に止まっている。

農産品及びその加工品の輸出が全体に占めた割合は、10%に満たぬものである反面、ブラジルがメルコスールより輸入する商品の60%は、農産物である現実の前に本市場統合計画によって影響を受ける度合いが大きい部門は、農牧部門にあるということが出来る。

更にブラジルの輸入全体をみる場合、メルコスール以外の国から農牧産品輸入が年によって極めて不規則なのに対し、メルコスールからの輸入は、段階的に増加しておりブラジルの農牧産品輸入に占めたメルコスールの割合は、1985年の30%より1990年には、60%へと倍加している。

ブラジルの対アルゼンチン輸出

US\$1,000FOB

項 目	1990		1991		90/91 (%)	91年 92年上半年		
	金額	構成比	金額	構成比		91年	92年	± (%)
輸送機器	65.498	10,15	261.055	17,69	298,57	66.674	354.235	431,29
自動車及び部品	64.245	9,96	259.447	17,58	303,84	65.578	353.932	439,71
機械、工作機器及び電気機器	118.210	18,32	273.160	18,51	131,84	93.782	204.404	117,96
工作用機械器具	82.263	12,75	190.646	12,92	131,75	65.622	151.665	131,12
電気用機械器具	35.947	5,57	82.514	5,59	129,54	28.160	52.739	87,28
化学工業用製品	161.389	25,02	243.824	16,52	51,08	100.962	161.566	60,03
プラスチック及びその製品	25.934	4,02	75.159	5,09	189,81	33.083	53.075	60,43
有機化学製品	92.143	14,28	94.647	6,41	2,72	40.582	54.419	34,10
化学工業各種製品	19.549	3,03	23.372	1,58	19,56	7.047	15.875	125,27
無機化学製品	11.267	1,75	18.028	1,22	60,01	8.665	16.837	94,31
写真及び映画用機械	3.234	0,50	13.312	0,90	311,63	4.125	7.467	81,02
染料	2.696	0,42	8.285	0,56	207,31	3.563	4.983	39,85
金属工作器具類	72.667	11,26	182.203	12,35	150,74	70.843	162.693	129,65
金属製品	47.023	7,29	122.114	8,28	159,69	49.399	113.117	128,99
工作機各種加工品	6.077	0,94	17.300	1,17	184,68	6.097	11.793	93,42
鉄鋼加工品	7.686	1,19	17.678	1,20	130,00	7.034	15.172	115,70
アルミ及びその製品	4.899	0,76	9.000	0,61	83,71	2.344	7.800	232,76
鉱産物	118.310	18,34	122.039	8,27	3,15	53.806	68.731	27,74
鉱石、鉱滓	104.477	16,19	107.277	7,27	2,68	48.672	49.079	0,84
燃料類	7.607	1,18	7.957	0,54	4,84	1.931	15.860	721,34
塩、硫黄、石膏、セメント他	6.226	0,97	6.788	0,46	9,03	3.203	3.793	18,42
ゴム及びその製品	13.568	2,10	56.623	3,84	317,33	15.543	48.880	214,48
繊維及びその製品	11.964	1,85	67.734	4,59	466,15	19.750	54.851	177,73
人工及び合成繊維	9.082	1,41	28.937	1,96	218,62	11.832	22.372	89,03
綿(綿花、糸、布地)	450	0,07	13.619	0,92		3.934	8.481	115,58
衣服	32	-	7.663	0,52		415	5.593	
セルローズ、紙及び加工品	18.190	2,82	86.596	5,87	376,06	33.555	55.568	65,60

装紙及び原紙	15.335	2,38	77.885	5,28	407,89	30.753	50.261	63,43
食品、飲料、タバコ工業製品	20.634	3,20	52.358	3,55	153,75	20.847	41.097	97,14
ココア及びその加工品	16.777	2,60	33.156	2,25	97,63	15.044	17.547	16,64
畜産物	2.630	0,41	12.147	0,82	361,86	4.149	33.140	698,75
肉類及び加工品	0	0,00	3.122	0,21	—	91	23.464	
農作物	24.242	3,76	56.761	3,85	134,14	24.636	24.812	0,71
コーヒー、茶、マテ茶、香料	15.217	2,36	30.277	2,05	98,97	14.740	14.566	- 1,18
果実類	8.253	1,28	20.664	1,40	150,38	9.147	7.800	14,73
陶器、ガラス、石膏、セメント製品	6.942	1,08	26.611	1,80	283,33	6.344	13.899	119,09
その他	10.896	1,69	34.409	2,33	215,79	10.430	37.008	254,82
合計	645.140	100,00	1.475.520	100,00	128,71	521.321	1.260.884	141,86

出所：DECEX

ブラジルの対バラグワイ輸出

US\$1.000FOB

項 目	1990		1991		90/91 (%)	91年 92年上半年期		
	金額	構成比	金額	構成比		91年	92年	± (%)
食品、飲料及びタバコ	38.331	10,07	69.933	14,09	82,45	32.122	43.622	35,80
アルコール飲料	14.881	3,91	35.774	7,21	140,40	16.704	22.387	34,02
タバコ	5.958	1,57	13.620	2,74	128,60	5.649	12.630	123,58
砂糖及び菓子類	8.251	2,17	9.167	1,85	11,10	4.100	3.634	-11,37
工作機械及び電気機器	63.261	16,63	91.636	18,47	44,85	45.991	33.759	-26,60
工作機械器具	39.730	10,44	62.697	12,64	57,81	31.957	22.486	-28,84
電気機器	23.531	6,18	28.939	5,83	22,98	14.394	11.273	-21,68
化学工業製品	47.136	12,39	62.201	12,54	31,96	24.253	25.585	5,49
プラスチック及び加工品	13.638	3,58	17.323	3,49	27,02	8.296	7.066	-14,83
肥料類	9.932	2,61	12.288	2,48	23,72	3.167	1.604	-49,35
煤炭及び加工品	49.740	13,07	62.084	12,51	24,82	27.970	25.997	- 7,05
各種煤炭加工品	20.474	5,38	33.082	6,67	61,58	15.419	14.896	- 3,39
綿(織物、糸、布)	13.115	3,45	1.404	2,83	7,05	6.695	4.485	-27,63
布類	4.024	1,06	697	0,14	-82,68	198	153	-22,73
金属製品	32.963	8,66	43.744	8,82	32,71	23.545	18.444	-21,66
鉄鋼加工品	15.052	3,96	17.530	3,53	16,46	10.239	6.468	-36,83
鉄鋼	7.401	1,95	11.647	2,35	57,37	5.202	6.246	20,07
工作機器	5.455	1,43	6.529	1,32	19,69	3.538	2.293	-35,19
アルミ及び加工品	2.896	0,76	5.376	1,08	85,64	3.311	2.075	-37,33
ゴム及び加工品	33.602	8,83	37.624	7,58	11,97	16.971	15.803	- 6,88
輸送機器	35.779	9,40	34.506	6,95	- 3,56	18.226	14.356	-21,23

自動車及び部品	35.772	9,40	34.454	6,94	- 3,68	18.222	14.316	-21,44
陶器、ガラス、石膏及びセメント	20.101	5,28	23.423	4,72	16,53	10.546	10.554	0,08
鉱産物	26.605	6,99	26.015	5,24	- 2,22	13.794	9.500	-31,13
燃料、油脂	20.772	5,46	20.599	4,15	- 0,83	10.743	7.373	-31,37
塩、硫酸、石膏、セメント	5.202	1,37	4.627	0,93	-11,05	2.496	1.053	-57,81
セルローズ、紙、及び加工品	11.786	3,10	14.179	2,86	20,30	6.193	6.158	- 0,57
装紙及び原紙	11.625	3,06	14.046	2,83	20,83	6.115	6.106	- 0,15
靴、他、装飾品	9.233	2,43	12.093	2,44	30,98	6.471	5.087	-21,39
靴類	9.201	2,42	12.057	2,43	31,04	6.458	5.062	21,62
その他	11.947	3,14	18.746	3,78	56,91	7.320	8.278	13,09
合計	380.484	100,00	496.184	100,00	30,41	233.402	217.143	- 6,79

出所：DECEX

ブラジルの対ウルグワイ輸出

US\$1.000FOB

項 目	1990		1991		90/91 (%)	91年 92年上半期		
	金額	構成比	金額	構成比		91年	92年	± (%)
輸送機器	65.076	22,09	77.957	23,13	19,79	32.770	45.923	40,14
自動車及び部品	65.073	22,09	77.724	23,06	19,44	32.656	45.914	40,60
工作用機械及び電気機器	60.722	20,61	52.078	15,45	-14,24	24.311	27.163	11,73
工作用機械	30.605	10,39	33.905	10,06	10,78	15.351	18.837	22,71
電気機器	30.118	10,22	18.173	5,39	-39,66	8.960	8.326	- 7,08
化学工業用製品	64.451	21,88	67.377	19,99	4,54	36.916	23.998	-34,99
プラスチック及び製品	31.684	10,75	31.458	9,33	- 0,71	17.072	11.282	-33,92
有機化学製品	7.208	2,45	8.418	2,50	16,79	4.930	3.402	-30,99
染色剤	5.286	1,79	3.702	1,10	-29,97	1.348	2.662	97,48
写真及び映画用機械	4.450	1,51	2.475	0,73	-44,38	1.664	1.377	-17,25
肥料	4.960	1,68	7.393	2,19	49,05	4.955	48	-99,03
金属製品	26.963	9,15	31.951	9,48	18,50	16.254	17.968	10,55
鉄鋼製品	17.518	5,95	19.855	5,89	13,34	10.439	11.784	12,88
鉄鋼加工品	4.229	1,44	4.894	1,45	15,72	2.502	2.727	8,99
農作物	23.916	8,12	26.408	7,83	10,42	13.199	14.674	11,18
コーヒー、茶、マテ茶、香料	17.493	5,94	18.425	5,47	5,33	9.254	8.829	- 4,59
果実類	4.816	1,63	6.077	1,80	26,18	3.244	2.455	-24,32
繊維及び加工品	11.596	3,93	19.847	5,89	71,55	8.830	11.353	28,57
羊毛	696	0,24	4.774	1,42	585,92	3.483	3.807	9,30
綿(繊維、糸、布地)	2.439	0,83	3.519	1,04	44,28	1.378	1.040	-24,53
繊維くず	3.492	1,19	2.926	0,87	-16,21	1.454	1.111	-23,59

敏産物	5,089	1,73	7,070	2,10	38,93	6,143	3,892	-36,64
燃料類	3,062	1,04	351	0,10	-88,54	217	3,304	
鉱石類	660	0,22	5,306	1,57	703,94	5,141	119	-97,69
セルロース、紙及び製品	9,209	3,13	15,997	4,75	73,71	9,250	6,805	-26,43
装紙及び原紙	7,097	2,41	13,877	4,12	95,53	7,937	6,329	-20,26
ゴム及び製品	5,593	1,90	7,899	2,34	41,23	3,737	3,506	- 6,18
食品、飲料、タバコ工業製品	4,876	1,66	9,005	2,67	84,68	6,304	3,634	-42,35
皮革製品	5,227	1,77	5,236	1,55	0,17	3,868	321	-91,70
その他	11,930	4,05	16,242	4,82	36,14	7,041	8,906	26,49
合計	294,621	100,00	337,067	100,00	14,41	168,623	168,143	- 0,28

出所：DECEX

#### 4・6 メルコスールの農業生産状況

メルコスールの農業生産状況：米 (生産量) 1,000 t

年度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	351	10,374	46	394	11,165
87	415	10,419	79	335	11,248
88	490	11,809	57	388	12,744
89	446	11,044	64	520	12,074
90	430	7,419	57	356	8,262
平均	426	10,213	61	399	11,098

(面積) 1,000 ha

1986	89	5,585	17	84	5,775
87	100	5,980	22	79	6,181
88	104	5,959	15	80	6,158
89	111	5,250	16	92	5,469
90	102	3,945	16	82	4,145
平均	101	5,344	17	83	5,346

(反収) Kg/ha

1986	3,915	1,857	2,782	4,652	1,933
87	4,150	1,742	3,584	4,225	2,019
88	4,671	1,982	3,694	4,808	2,069
89	3,996	2,104	4,668	5,652	2,208
90	4,188	1,884	3,566	4,350	1,993
平均	4,218	1,911	3,588	4,807	2,001

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：小麦 (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	8,934	5,690	240	246	15,110
87	8,857	6,035	284	231	15,407
88	8,285	5,738	318	307	14,648
89	10,298	7,166	524	413	18,401
90	11,178	7,862	432	542	20,014
平均	9,510	6,498	359	348	16,716

(面積) 1,000 ha

1986	4,874	3,864	162	216	9,116
87	4,734	3,546	174	187	8,641
88	4,510	3,468	197	169	8,348
89	5,423	3,281	248	177	9,129
90	5,849	2,681	226	227	8,982
平均	5,078	3,368	201	195	8,843

(反収) Kg/ha

1986	1,833	1,472	1,481	1,138	1,657
87	1,870	1,746	1,631	1,234	1,783
88	1,836	1,654	1,616	1,818	1,755
89	1,898	2,183	2,112	2,320	2,016
90	1,910	2,932	1,912	2,380	2,228
平均	1,872	1,929	1,786	1,785	1,890

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：とうもろこし (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	9,250	20,531	469	103	30,353
87	9,200	26,803	1,001	117	37,121
88	4,260	24,748	961	118	30,087
89	5,250	26,573	1,000	60	32,883
90	7,443	21,339	1,139	112	30,033
平均	7,081	23,999	914	102	32,095

(面積) 1,000 ha

1986	2,900	12,466	376	76	15,818
87	2,437	13,503	568	87	16,595
88	1,520	13,169	486	74	15,251

89	1.520	12.932	500	76	15.028
90	1.603	11.389	518	60	13.570
平均	1.996	12.692	490	75	15.252

(反収) Kg/ha

1986	3.189	1.646	1.245	1.350	1.919
87	3.775	1.984	1.762	1.343	2.237
88	2.802	1.879	1.977	1.592	1.973
89	3.275	2.054	2.001	788	2.188
90	3.864	1.873	2.199	1.851	2.213
平均	3.548	1.891	1.865	1.360	2.104

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：大豆 (生産量) 1,000 t

年度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	133	186	—	79	398
87	281	157	—	62	540
88	318	126	—	123	567
89	382	248	—	203	833
90	286	157	—	202	655
平均	282	183	—	133	599

(面積) 1,000 ha

1986	93	103	—	65	261
87	131	202	—	50	394
88	134	107	—	61	302
89	172	113	—	84	369
90	128	105	—	90	323
平均	132	126	—	70	330

(反収) Kg/ha

1986	1.422	1.799	—	1.209	1.525
87	2.149	973	—	1.229	1.371
88	2.372	1.170	—	2.000	1.877
89	2.333	2.180	—	2.415	2.257
90	2.310	1.498	—	2.235	2.028
平均	2.136	1.452	—	1.900	1.815

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA



メルコスールの農業生産状況：からす苳 (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	495	134	—	27	656
87	718	176	—	58	952
88	450	139	—	63	652
89	620	236	—	70	926
90	641	174	—	51	866
平均	585	172	—	54	810

(面積) 1,000 ha

1986	312	128	—	48	488
87	476	141	—	72	675
88	355	145	—	58	558
89	427	204	—	69	700
90	438	189	—	50	677
平均	402	161	—	59	620

(反収) Kg/ha

1986	1.586	1.045	—	473	1.344
87	1.507	1.248	—	808	1.410
88	1.265	971	—	1.083	1.168
89	1.448	1.157	—	1.009	1.323
90	1.460	922	—	1.001	1.279
平均	1.455	1.068	—	915	1.706

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：ソルガム (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	3.000	365	17	104	3.486
87	3.200	438	22	90	3.750
88	1.360	302	29	121	1.812
89	2.040	241	30	78	2.389
90	2.342	228	29	59	2.658
平均	2.388	315	25	90	2.819

(面積) 1,000 ha

1986	977	196	14	40	1.227
87	956	231	15	30	1.232
88	597	219	22	44	882

89	710	165	22	38	935
90	668	133	23	26	850
平均	782	189	19	36	1,025

(反収) kg/ha

1986	3,070	1,865	1,319	2,608	2,841
87	3,347	1,900	1,433	2,941	3,044
88	2,277	1,376	1,347	2,706	2,054
89	2,872	1,464	1,353	2,006	2,555
90	3,504	1,708	1,259	2,268	3,127
平均	3,054	1,667	1,316	2,500	2,750

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：大豆 (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	6,700	13,330	662	35	20,727
87	9,900	16,969	1,179	62	28,120
88	6,250	18,016	1,407	72	25,745
89	10,800	24,071	1,615	38	36,524
90	10,708	19,888	1,795	51	32,442
平均	8,872	18,455	1,332	52	28,712

(面積) 1,000 ha

1986	3,533	9,182	539	20	13,274
87	4,373	9,134	673	36	14,216
88	3,903	10,520	765	40	15,228
89	4,984	12,211	831	55	18,101
90	4,794	11,481	900	30	17,205
平均	4,317	10,506	744	36	15,605

(反収) Kg/ha

1986	1,896	1,451	1,228	1,762	1,561
87	2,263	1,857	1,749	1,700	1,978
88	1,601	1,712	1,838	1,800	1,691
89	2,166	1,971	1,897	700	2,018
90	2,233	1,721	1,994	1,700	1,886
平均	2,055	1,757	1,790	1,444	1,840

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：ヒマワリ (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	2,200	--	10	72	2,282
87	2,915	--	20	47	2,982
88	3,100	--	4	32	3,136
89	3,800	--	4	48	3,852
90	4,034	--	4	28	4,066
平均	3,210	--	8	45	3,264

(面積) 1,000 ha

1986	1,735	--	11	77	1,823
87	2,032	--	17	67	2,116
88	2,156	--	4	46	2,226
89	2,732	--	4	66	2,802
90	2,303	--	4	58	2,365
平均	2,192	--	8	63	2,266

(反収) Kg/ha

1986	1,267	--	885	933	1,252
87	1,434	--	1,214	715	1,409
88	1,437	--	1,091	695	1,409
89	1,390	--	1,164	732	1,375
90	1,751	--	1,124	489	1,719
平均	1,464	--	1,000	714	1,440

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：綿 (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	322	2,314	343	394	3,373
87	849	1,673	248	119	3,889
88	619	2,537	543	130	3,829
89	789	1,871	630	161	3,451
90	782	1,813	642	100	3,337
平均	672	2,042	481	181	3,376

(面積) 1,000 ha

1986	273	3,160	384	440	4,257
87	492	1,968	284	170	2,914
88	501	2,559	403	185	3,648

89	534	2.135	438	200	3.297
90	634	2.286	509	161	3.590
平均	487	2.420	404	231	3.540

(反収) Kg/ha

1986	1.181	1.101	892	895	792
87	1.726	1.263	873	699	991
88	1.234	1.336	1.374	701	1.050
89	1.493	1.203	1.438	804	1.047
90	1.460	1.283	1.262	621	929
平均	1.380	1.237	1.191	784	953

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA・注) ブラジルの反収は草綿のみ

メルコスールの農業生産状況：亜麻 (生産量) 1,000 t

年度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	622	—	—	7	629
87	535	—	—	6	541
88	416	—	—	3	419
89	474	—	—	2	476
90	467	—	—	1	468
平均	503	—	—	4	507

(面積) 1,000 ha

1986	744	—	—	10	754
87	655	—	—	8	663
88	560	—	—	3	563
89	582	—	—	1	583
90	573	—	—	1	574
平均	629	—	—	5	627

(反収) Kg/ha

1986	836	—	—	640	834
87	846	—	—	663	816
88	742	—	—	805	744
89	814	—	—	949	816
90	821	—	—	592	815
平均	799	—	—	800	809

出所：MOAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：じゃがいも (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	2.058	1.836	6	18	3.918
87	2.104	2.331	8	15	4.458
88	2.859	2.306	2	19	5.186
89	2.209	2.132	3	15	4.359
90	S/D	2.219	3	15	-
平均	2.308	2.165	4	16	4.480

(面積) 1,000 ha

1986	112	161	1	111	384
87	109	177	1	126	412
88	112	174	1	143	429
89	105	157	1	128	390
90	S/D	158	1	118	-
平均	109	165	1	125	404

(反収) Kg/ha

1986	18.375	11.426	6.218	6.303	10.203
87	19.302	13.179	6.868	8.347	10.820
88	25.526	13.272	6.489	7.399	12.089
89	21.038	13.601	7.137	8.578	11.177
90	S/D	14.066	6.877	7.840	-
平均	21.174	13.121	6.718	7.693	11.089

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA 注) S/Dデータなし

メルコスールの農業生産状況：玉ねぎ (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	250	639	36	2	1.027
87	315	854	35	S/D	-
88	320	780	28	S/D	-
89	330	797	32	S/D	-
90	S/D	867	30	S/D	-
平均	304	787	32	-	-

(面積) 1,000 ha

1986	12	64	5	12	93
87	14	75	6	S/D	-
88	14	69	4	S/D	-

89	14	74	5	S/D	-
90	S/D	74	5	S/D	-
平均	14	71	5	-	-

(反収) Kg/ha

1986	20.648	10.038	7.009	6.599	11.043
87	23.147	11.380	6.178	S/D	-
88	23.350	11.240	6.828	S/D	-
89	23.570	10.802	6.907	S/D	-
90	S/D	11.652	5.962	S/D	-
平均	21.714	11.085	6.400	-	-

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA 注) S/D データーなし

メルコスールの農業生産状況：にんにく (生産量) 1,000 t

年度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	33	62	1	0,2	96,2
87	42	76	2	S/D	-
88	37	58	2	◇	-
89	40	62	2	◇	-
90	S/D	71	1	◇	-
平均	38	66	1,6	-	-

(面積) 1,000 Kg

1986	6,7	14,6	1	0,4	21,7
87	7,7	17,9	1	S/D	-
88	7,0	14,3	1	◇	-
89	8,0	14,0	1	◇	-
90	S/D	17,1	1	◇	-
平均	7,4	15,6	1	-	-

(反収) Kg/ha

1986	4.925	4.232	1.346	S/D	4.433
87	5.454	4.250	1.684	◇	-
88	5.285	4.030	1.643	◇	-
89	5.000	4.443	1.600	◇	-
90	S/D	4.145	2.260	◇	-
平均	5.166	4.220	1.707	-	-

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA 注) S/D データなし

メルコスールの農業生産状況：トマト (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	677	1,846	50,09	2,08	2,575,17
87	653	2,049	86,14	1,95	2,790,09
88	S/D	2,407	81,07	1,83	—
89	390	2,177	77,38	1,70	2,646,08
90	S/D	2,256	52,14	1,57	—
平均	573	2,147	69,36	1,83	2,670,45

(面積) 1,000 ha

1986	30	52	2,65	29,03	113,68
87	26	58	2,95	30,19	117,14
88	S/D	63	2,87	31,36	—
89	15	64	2,83	32,52	114,35
90	S/D	61	2,00	33,69	—
平均	24	60	2,66	33,36	115,06

(反収) Kg/ha

1986	22,125	35,605	18,916	13,929	22,652
87	24,933	35,574	29,171	15,451	23,818
88	S/D	38,328	28,287	17,181	—
89	24,840	33,780	27,332	19,186	23,094
90	S/D	37,212	26,070	21,510	—
平均	23,875	35,783	26,075	17,451	23,209

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA 注) S/D データなし

メルコスールの農業生産状況：りんご (生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	594	356	0,62	39	989,62
87	1,078	334	0,63	42	1,454,63
88	925	439	0,57	32	1,396,57
89	891	477	0,56	44	1,412,56
90	1,150	543	S/D	28	—
平均	928	430	0,59	38	1,313,35

(面積) 1,000 ha

1986	59	21	0,62	2,15	82,77
87	58	21	0,63	1,97	81,60
88	57	22	0,57	2,86	82,43

89	56	21	0,58	3,76	81,34
90	57	22	S/D	4,66	-
平均	57	21	0,60	3,08	82,04

(反収) Kg/ha

1986	10.152	16.963	1.000	18.140	11.920
87	18.554	15.735	1.000	21.363	17.826
88	16.247	19.615	1.000	11.173	16.942
89	15.794	22.873	1.000	11.696	17.366
90	20.069	24.383	S/D	6.009	-
平均	16.281	20.476	-	9.099	16.009

出所: MOAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA 注) S/D データなし

メルコスールの農業生産状況: ぶどう (生産量) 1.000 t

年度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	2.563	595	9,15	95	3.262,15
87	3.694	566	11,21	102	4.373,21
88	3.192	772	11,66	140	4.115,66
89	2.862	S/D	11,79	112	-
90	2.971	S/D	11,54	121	-
平均	3.056	644	11,07	114	3.917,0

(面積) 1.000 ha

1986	283	59	1,58	S/D	-
87	274	59	1,59	S/D	-
88	268	58	1,60	S/D	-
89	260	59	1,60	11,82	332,42
90	209	57	1,60	S/D	-
平均	259	58	1,59	-	-

(反収) Kg/ha

1986	9.035	10.092	5.797	S/D	-
87	13.445	9.625	7.073	S/D	-
88	11.892	13.230	7.312	S/D	-
89	11.000	S/D	7.357	9.459	-
90	14.206	S/D	7.196	S/D	-
平均	11.799	11.103	6.962	-	-

出所



メルコスールの農業生産状況：牛 (飼育数量) 1,000 頭

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	52.700	(85年)128.174	7.151	9.300	—
87	51.000	—	7.374	9.945	—
88	50.500	—	7.780	10.333	—
89	50.200	—	8.074	10.373	—
90	50.000	—	7.449	8.582	—
平均	50.900	—	7.565	9.707	—

(屠殺数) 1,000 頭

1986	14.000	9.111	567	1.636	25.314
87	12.800	9.996	606	1.248	24.650
88	12.200	12.542	729	1.479	26.950
89	12.500	12.981	957	1.818	28.256
90	12.400	8.377	1.045	1.528	23.350
平均	12.800	10.001	781	1.542	25.704

(牛肉生産量) 1,000 t

1986	2.870	1.958	S/D	358	—
87	2.700	2.137	S/D	258	—
88	2.607	2.380	S/D	318	—
89	2.653	2.748	S/D	368	—
90	2.610	2.775	S/D	506	—
平均	2.688	2.400	—	362	—

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

メルコスールの農業生産状況：鶏 (鶏肉生産量) 1,000 t

年 度	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ	計
1986	357	227	39	19	642
87	403	211	43	22	679
88	359	237	46	25	667
89	312	S/D	50	26	—
90	335	S/D	S/D	26	—
平均	353	225	45	24	663

(牛乳生産量) 1,000リットル

1986	6.113	12.491	355	930	19.889
87	6.129	12.996	364	958	20.447
88	6.002	13.522	374	960	20.858

8 9	5.969	13.951	384	975	21.278
9 0	5.824	S/D	S/D	1.005	-
平均	6.007	13.240	369	966	20.618

(豚肉生産量) 1.000 t

1 9 8 6	207	621	29	251	1.103
8 7	S/D	738	31	258	-
8 8	S/D	716	33	257	-
8 9	S/D	643	36	262	-
9 0	S/D	727	S/D	276	-
平均	207	689	32	287	1.103

出所：MGAP URUGUAY, GTZ ALEMANIA

## 5 メルコスールのインフラ・ストラクチャー構想

他の経済ブロックと比較してメルコスールが持つ弱点の中にインフラ・ストラクチャー分野、とくに輸出システムの不備があげられている。このため、部門別協議の中で第5及び第6グループが担当する輸送インフラ部門の討議がすすめられているが、この中に可成り具体的な計画としてサン・パウロ〜ブエノス・アイレス間を結ぶメルコスール幹線道路の建設構想があり、92年10月にはブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州カネーラ市において第1回目の会議が行われ、メンバー国代表のほか、米州開発銀行（BID）代表も参加して討議が行われた。

この道路建設案は、各種のコースによって全長 2,099kmから 2,556kmの間の変化があるが、この計画が実現される場合には、おそらくラテン・アメリカ最大の道路建設プロジェクトとなる規模のものであるため、米州開発銀行（BID）も特別の関心を寄せているものと思われ、又建設資金の調達源として重要なBIDが会議に参加したことは今後の計画推進上極めて大きな意味を持つものとして注目されている。

このメルコスール幹線道路構想は、英国、フランス間ドーバー海峡のトンネル建設工事に参加した実績を持つフランス国籍 LYONNAISE DES AUX DUMEZグループのブラジル現地会社 CONSTRUTORA DUMEZ社の発案になるもので、全コースの中にはすでにアルゼンチン、ウルグアイ両国間ですすめられているラ・プラタ川を狭む世界最大の橋梁建設計画も含まれている。

DUMEZ社の提案になる幹線道路は、ブラジルのサン・パウロ市を起点とし、ブラジル南部の3州（パラナ、サンタ・カタリーナ及びリオ・グランデ・ド・スール）を通過したあとウルグアイ国に入り、モンテ・ビデオ市を経由してコロニア市にいたり、こゝよりラ・プラタ川を渡ってブエノス・アイレス市に到達するものであるが、すべてを新設するわけではなく、この区間にすでにある道路の拡張整備を中心として行われることになる。

最初の区間としてのサン・パウロ〜クリチーバ間 390Kmは、現在サン・パウロより南部地方に通じる唯一の道路である。BR-116号を4車線に拡張することより始められる。

次のクリチーバ〜ポルト・アレグレ間は二つの案があり、フロリアノポリス市を経由して海岸線（BR101号）を用いる方法と内陸地の道路を用いる方法が考えられている。海岸線が延べ 777Kmであるのに対し、奥地を通ると 688Kmと約90Kmの差があり走行時間を大巾に短縮し得る利点がある。

ポルト・アレグレよりウルグアイ国の首都モンテ・ビデオ市にいたる第3の区間も又海岸線利用と奥地利用の二つの案があり、この場合も海岸線が、896Kmであるのに対し奥地の場合は、781Kmと 115Kmに及ぶ差がある。奥地のルートは、ポルト・アレグレよりBR-290号国道を利用して ROSARIO DO SULに向い、又海岸線の場合は、BR-116号線を利用したあとBR-471号線に入って国境の町CHUÍに到着、ウルグアイ側のCHUÍ市に入ったあとモンテ・ビデオに向うことになる。

ウルグアイ国内の第2の区間となるモンテ・ビデオ市以降は、180Kmの地点にあるコロニア市をウルグアイ国内の終着点とし、こゝよりラ・プラタ川に建設される橋を渡ってブエノス・アイレス市にいたる方法と、ROSARIO DO SULよりウルグアイ国内のPAYSANDU, GUALEGUAYCHOを通過してブエノス・アイレス市にいたる二つの方法がある。この場合、ブエノス・アイレス〜ROSARIO DO SUL間の距離は734 kmで

ある。

コロニア市をウルグアイ国の終着点とし、こゝよりラ・プラタ川を渡る案は、ラ・プラタ川を挟んでコロニア市とブエノスアイレス市を結ぶ橋梁の建設によってのみ実現する。

アルゼンチンの首都ブエノス・アイレス市とウルグアイ国のコロニア市を結ぶラ・プラタ川の橋梁建設プロジェクトは、大型プロジェクトとして世界の注目を集めているが、92年9月には、世界の18ヶ国より129の建設、エンジニアリング企業の代表がブエノス・アイレス市に集まり、同プロジェクトに関する最初の説明会が開催され、情報の交換が行われた。

ラ・プラタ川を渡るこの橋梁は、全長40～55km（注：建設地点によって異なる）にわたるものでこれが実現すると世界最長の橋となるが、これを利用する場合、ポルト・アレーグレ市とブエノス・アイレス間の距離は、203 km短縮され、モンテ・ビデオ～ブエノス・アイレス間は、現状の672kmが227kmに短縮されるだけにあらゆる意味で経済効果が期待される橋となる。

この会合は、地元のメルコスール・メンバー国はもちろん米国、カナダ、イタリア、オランダ、ドイツ、英国、スペイン、ベルギー、フランス、デンマーク、オーストラリア、日本、中国、メキシコ、ロシアの関連企業代表者が出席しており、世界の関心の深さを示すものがあつた。ブラジルよりは、CAMARGO CORREIA, QUEROS GALVÃO, CONVAP, ESTACÓN MONTREAL, PROMON各エンジニアリング会社やリオ・デ・ジャネイロ市に事務所を持つフランス系銀行（BANCO CREDITO COMERCIA）が代表を送っている。

建設コストについては、いまだ構想の段階で具体的な設計は行われていないが、これだけ大型のものだけに7～10億ドルに達するものであろうといわれている。工事が決定する場合、その管理は、アルゼンチン～ウルグアイ2国間委員会が担当することになるが、建設工事そのものに両国政府は介入せずあくまで民間主体とすることが建て前となっており、投資資金の回収は通行税の徴収権を与えることにより行う計画となっている。問題となる資金面では、世銀が本プロジェクトの基礎調査とフィジビリティ・スタディーに対する資金融資の準備があることを明らかとしているところから、建設プロジェクトは、93年中にも一歩前進していくものと思われる。

橋梁建設の予定地としては、5ヶ所の候補地点がある。この中でもブエノス・アイレス市の中心地、（市内の空港AEROPARQUE JORGE NEWBERRY）とコロニア市の港を結ぶ線、及びブエノス・アイレス市北部の島とウルグアイのCARMELLO市経由コロニア市にいたるコースが有力であるが、更に調査研究の結果第6コースが出来る可能性もある。このため橋の全長が40kmでおさまるのか53kmにまで拡大されるのかは現時点では不明であるが、たゞ一つ明らかなことは、この橋が世界最大の橋になるということである。

ラ・プラタ川橋梁建設の構想は、メルコスール構想以前より存在したもので、1985年当時のラウル・アルフォンシン・アルゼンチン大統領と、フリオ・サンギネッテ・ウルグアイ大統領が橋梁建設の意向を表明したコミュニケを発表したのを最初としている。その後1991年フェルナンド・コーロル（ブラジル）、カルロス・メネン（アルゼンチン）、アンドレ・ロドリゲス（パラグアイ）及びルイス・アルベルト・ラカリーエ（ウルグアイ）各大統領が、ブラジリア市においてメルコスール構想の話し合いを行った時、その後同じメンバーがアルゼンチンのラス・レーニャス市に集ってメルコスール計画スケジュールの話し合いが行われた時も橋梁建設の必要性が再度確認されている。

橋梁建設計画を推進するアルゼンチン、ウルグアイ両国の混合委員会によると、この橋梁建設プロセスには、英国、フランス間の海底トンネル工事の時と同様に世界の大手企業が集まることを期待しており、

これにドーバー海峡工事に参加出来なかったアルゼンチン、ブラジル及びウルグアイの企業が参加する形をとりたいとの意向である。英国、フランス間トンネル工事の時は、約 300の企業がコンソーシアムを作り、220の銀行がこれに融資したといわれている。

同混合委員会によると工事の国際入札は、1994年の始めとなり、95年の始めには着工され、4年半後の2000年に竣工することになろうとの見通しである。その時点でメルコスールは、開設後5年目を迎えることになる。

この橋梁建設工事は、その規模が世界最大のものとなるにかかわらず建設工事そのものはそれ程困難なものではなく、それだけに建設コストも他の大型橋梁の場合よりは低くなるうといわれている。そのもっとも大きな要因は、ラ・プラタ川の水深がわずか4～5mと浅く橋ぐいの建設工事を容易とする点にある。

上記、橋梁を含む道路計画の総工費は、約25億ドルと概算されている。この投資は、道路及び橋梁の交通税徴収権と道路沿線における各種の事業収入を引当てに全面的に民間に委ねられる計画となっており、そのフィジビリティ・スタディがメンバー国の信任を受けた専門会社によって行われることになる。同会議を主催したブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州アルセウ・コラーレス知事は、この構想がメルコスールの統合を具体的に示す一大企画であり、又同会議に対するBIDの代表者派遣は、技術面の討議にとまらず本道路計画に参加を希望する企業に対し資金面の援助を裏書きするものであると強調していた。

リオ・グランデ・ド・スール州が本会議を推進したのは、本道路計画全長約2,500Kmの25%が同州を通過することになり、道路計画実現の時には観光分野をも含め、数多くの恩恵が期待されるからである。このため州政府としても独自にDUMEZ社のプロジェクトを検討しており、州としての修正案を提出する準備が行われている。その中の一つとして既存の舗装道路を利用しようとするDUMEZ社の原案がSÃO PAULOからPORTO ALEGREまでをBR-101及びBR-290号路線、PORTO ALEGREからPELOTASまでをBR-116号線、PELOTASからウルグアイ国境のCHUÍまでをBR-471号線としているのに対し、州政府案としてはサンタ・カタリーナ州CAMPOS NOVOSよりBARRAÇÃOを經由BR-470号線によって州内に入り、LAGOA VERMELHA, NOVA PRATA, GENERAL CAMARA, ARRUDO DOS RATOSを経てCAMAQUÁにいたるBR-116号線を希望している。この道路の大半はアスファルト舗装がまだ行われていない。

DUMEZ社の提案になる道路計画が直面する問題点の中に環境問題がある。これは、予定線の中のPELOTAS～CHUÍ間にあるBANHADO DO TAIMが環境保全地域に指定されているため、州内の環境保全機関がすでに道路建設反対の意向を表明しているからである。この他道路の全長が長距離にわたるため、新たな接続問題も簡単な問題ではなく、その解決には3回間の法律の調整も含め、困難な前途が予想されている。

本道路計画は、約2億人の市場を持ちラテン・アメリカ資本の45%を占めるメルコスールの基本的なインフラとしてその建設の必要性が建設会社側や、直接の恩恵を受ける地元の機関によって説えられているが、地元のリオ・グランデ・ド・スール州の中ですらこの道路建設案に疑問を投げかける声もある。これらによると道路計画2,500Kmの中580～679Km(計画案によって異なる)が、リオ・グランデ・ド・スール州内を通過することになり、そのため工事は、同州にとって大きな恩恵となるものであるが実際の必要性和経済的採算性からみて多くの疑問点があるという意見である。同州の運輸局(MAURIADRIANO PANITS局長)によると、州内の自動車走行数は1日平均3,000台であるが、このような大型道路が維持

されるためには、1日20千台の利用が必要であるという。現在州内には約4,000Kmの国道と5,000Kmの州道があり、現状における州内の貨物輸送は支障なく行われている。州内で不足しているのはこれらの国道や州道に搬出するための支線道路であり、現存国道の拡張ではない。連邦政府は、既存道路の改修と農林道路の新設に意を向けるべきであり、新期プロジェクトを企画する時ではないとの批判である。又、経済的還元の可能性の乏しい企画に民間企業が参加する筈がないとの意見もつけ加えられている。例えばBR-116号線の復修工事においてリオ・グランデ・ド・スール州内の舗装工事は、1kmにつき150万ドルを必要としたが、このような巨額な投資々金の還元が交通量の少ない道路税や、道路沿線地域の貸与程度で賄える筈はないというのが論拠となっている。

メルコスール幹線道路構想の実現までには、未だ可成りの曲折があるものと予想される。

## 6 メルコスールにおける主要農産物の生産力と競争力

次表のデータは、メルコスール構成国の最重要穀物と見做される小麦、大豆、とうもろこし及び米の生産消費状況を比較したものである。このデータは、1986年より1990年にわたる5ヶ年間の平均をとったものであるが、メンバー国の中にデータ不足の年度や項目があり、国によっては4ヶ年又は、3ヶ年間の平均をとったものもあり、又、ブラジルのように5ヶ年間のうち1年間に急激な生産増加があったため5ヶ年間の平均を見るには、不適当な場合もあるが全体的な傾向を見る上では、大きな支障はないものと思われる。

このデータにより観察されるのは、構成4ヶ国の中、ブラジルが大豆、とうもろこし及び米において最大の生産国であり、他の3国の生産量を合せた量を上回る生産が行われていることである。これに対し小麦の場合は、アルゼンチンが最大の生産国でブラジル生産のほぼ倍の量の生産が行われている。

メルコスール4ヶ国を一つの単位としてみる場合、小麦、大豆及びとうもろこしについては、輸出合計が輸入合計を越しており、自給態勢にある。

米に関しては、4ヶ国の輸出合計量は、ブラジルの輸入量よりも少なく一見共同市場が自給態勢にない状況が示されている。ただし、ブラジルの輸入の中、1986年に記録された200万トンの輸入はブラジルとしても特殊なケースで、これを含めた量を比較の対象として用いることに一つの問題があることを考慮する必要がある。

構成4ヶ国の人口をみるとブラジルが147百万人、アルゼンチン32百万人、パラグアイ4,2百万人、ウルグアイ3,1百万人で合計186,3百万人となるが、この人口を基礎として推定される消費量約10.1百万トンは、生産総量よりも10%少ないものとなる。損失を最少限とし、生産量と消費量の差は種子に向けられたとみて、生産量は消費量を賄い得る量であり、米の場合も自給態勢にあるといえる。

小麦に関しては、1人年間の消費量を60kgとする場合、ブラジルの消費量は、8,8百万トンとなる。これに種子用として400千トンを加えた9,2百万トンがブラジルの年間平均需要量である。これよりブラジルの平均生産量5,2百万トンを差引き、損失はないものとしてブラジルでは、年間平均400万トンの輸入が必要となる。この量は、アルゼンチンの小麦輸出量の約90%に相当する。過去の実績からみるとこの5ヶ年間におけるブラジルの年間平均輸入量は、4,25百万トンでアルゼンチンの年間輸出量に相当する量である。したがって若しブラジルの需要量がすべてアルゼンチンによって供給されるとする場合、アルゼンチンは、小麦輸出の全量をブラジルに向けねばならず、年によって生産を増加しなければならない。なお、ウルグアイとパラグアイの小麦生産量は極めて少量であり大勢への影響はない。ブラジルの年間平均とうもろこし輸入量は少量で、アルゼンチン輸出の27%にすぎない。したがってブラジルの需要は、全量アルゼンチンによって供給することが可能である。なおアルゼンチンのとうもろこし生産コストは、世界でも、っとも低いもの、一つに数えられている。

主要4穀類の生産性に関しては、アルゼンチンが土壌、気候条件に恵まれて特筆すべき立場にあり、すぐれた生産性が記録されている。ウルグアイでは米の生産性が高く、ブラジルのリオ・グランデ・ド・スール州における水稻に匹敵する反収をあげている。大豆の工業加工比率は、ブラジルとアルゼンチンにおいて62%と高いが、パラグアイは14%と低く、パラグアイ国における工場施設能力の低さを示し

ている。このため、パラグアイの大豆は、その大半が原料の状態では海外へ輸出されている。パラグアイ国における工場施設能力の低さは、又国内の大豆生産が近年来急激に増大し、これに工業投資が平行しなかったことを示すものである。同国における大豆生産は1980～90年間に年間平均13%の増加であった。

消費に関しては、アルゼンチンでは米の1人年間消費量が低く、小麦の消費量が高い指数を示しており、ブラジルと対象的である。

メルコスール・メンバー国の小麦、大豆、とうもろこし及び米の生産・輸出入  
工業加工及び国内消費量（1人年間消費量） 1986～90年間平均

作物別	アルゼンチン	ブラジル	パラグアイ	ウルグアイ
<b>小麦</b>				
生産量 (1,000 t)	9,510	5,222	360	348
収穫面積 (1,000 ha)	5,078	3,350	201	195
生産性 (Kg/ha)	1,873	1,560	1,791	1,785
輸出量 (1,000 t)	4,422	6	38	55
輸入量 ( )	—	4,248	7	41
工業加工量 ( )	4,032	8,687	データなし	347
1人年間消費量(Kg/ha)	データなし	60	81	データなし
<b>大豆</b>				
生産量 (1,000 t)	8,872	18,455	1,332	52
収穫面積 (1,000 ha)	4,317	10,506	746	36
生産性 (Kg/ha)	2,055	1,757	1,785	1,444
輸出量 (1,000 t)				
大豆(豆)	1,931	2,274	1,337	32
大豆油	847	689	14	—
大豆粕	4,604	7,630	99	—
輸入量 (1,000 t)				
(大豆、豆、相当量)	—	808	—	データなし
工業加工量(1,000 t)	5,513	11,400	191	◇
1人年間消費量 (Kg)	データなし	62	データなし	◇
<b>とうもろこし</b>				
生産量 (1,000 t)	7,080	24,000	914	102
収穫面積 (1,000 ha)	2,077	12,692	490	75
生産性 (Kg/ha)	3,410	1,890	1,865	1,360
輸出量 (1,000 t)	4,089	73	1	1
輸入量	—	1,107	—	43
工業加工量(1,000 t)	1,344	2,330	データなし	データなし
1人年間消費量 (Kg)	データなし	15	36	3



米					
生産量 (1,000 t)	426	10,213	84	399	
収穫面積 (1,000 ha)	101	5,344	34	83	
生産性 (Kg/ha)	4,218	1,911	2,470	4,807	
輸出量	23	64	1	257	
輸入量	—	796	—	—	
工業加工量 (1,000 t)	384	8,206	データなし	データなし	
1人年間消費量 (Kg)	13	64	21	46	

出所：BARRETO BASSEWITZ (1922)

#### (生産コスト及び収益性)

生産コストに関する情報は、その大半がウルグアイ国農牧省がドイツのGTZ (DEUTSCHE GESELLSCHAFT FÜR TECHNISCHE ZUSAMMENARBEIT) の協力を得て行ったメルコスールに関する調査報告書より引用したものである。同報告書は、“メルコスールにおける農牧産品の競争力に関する研究”と題されたもので永年作物及び単年作物ならびに牧畜が対象されている。この中には、小麦、大豆及びとうもろこしが含まれるが、米は含まれていない。

又、ブラジルのデータはリオ・グランデ・ド・スール連邦大学経済調査研究センターで行われたもので、ブラジルの中でも南部地方のリオ・グランデ・ド・スール州、サンタ・カタリーナ州及びパラナ州がその例としてあげられている。

4ヶ国における主要作物の競争力を知るための方法として、お互いのデータを比較し得るよう生産資材価格の算出方法、機械、器具、装置のコスト算出システム、資本の利息、労働の報酬等の数字を一定の方法で算出している。

ブラジルのコスト及び収益計書の基礎となる数字は、EMATER (農業普及指導公社) SEAG/DERAL/PR, CEPA/SC (パラナ州及びサンタ・カタリーナ州農務局、技術部) CEASA (食糧集配センター)、SIMA (農務省農産物市場情報サービス) 等のデータが用いられている。

価格の推移は、1989年より1991年の間のものが利用されたが、通貨単位対ドル平価、インフレ率等がそれぞれ異り、各国の金額のみでは比較することが不可能のため、各月の平均レートによりドル貨換算額が示されている。生産者受取価格、生産資材価格なども同様の方法によっている。

各作物については、もっとも代表的なブラジルの南部地方、アルゼンチンのブエノス・アイレス地方が選ばれている。これら各地域の中では、生産者によって用いられている生産システムによってコストと収益性に变化のあることが示されている。

この研究は、小麦、大豆及びとうもろこしのすべての生産システムを対象としたものではなく、もっとも重要なものだけを選択したものである。すなわちブラジルの場合、小麦を例にとるとパラナ州小麦生産の95%を占める北部及び西部、リオ・グランデ・ド・スール州では、最も重要な地帯とされるブラナルト地方が選ばれている。

又、大豆に関してもパラナ州生産の90%を占める北部及び西部地方、リオ・グランデ・ド・スール州生産の70%を占めるブラナルト地方が研究の対象地帯である。又、リオ・グランデ・ド・スール州の中でコロニアル地区が選ばれているのは、この地方が小地主によって代表され、その農耕形態も半機械化シ

システムによるためである。

とうもろこしに関しては、パラナ州生産の80%近くを占める北部及び西部、リオ・グランデ・ド・スール州生産の60%を持つプラナルト地方、サンタ・カタリーナ州生産の90%を代表する西部地方がその対象とされている。たゞしとうもろこしの場合、リオ・グランデ・ド・スール州のコロニアル地方は、含まれていない。

生産地帯と生産システムが選ばれたあと生産コスト、収益性及び競争力の評価のため生産に用いられた技術レベルが明らかとされている。

各作物の生産コスト及び収益性推定は、生産者、普及業務機関、州農務局、農科大学生産者団体としての FECO TRIGO (リオ・グランデ・ド・スール州小麦及び大豆生産者協同組合連合) DCEPAR (パラナ州協同組合組織) や州機関としての INSTITUTO CEPA/SC (サンタ・カタリーナ州経済企画院) 及び州政府の出版物、EMBRAPA (ブラジル農牧研究公社) の調査報告書等より採用したものである。

次表は、米の生産コスト及び小麦、大豆及びとうもろこしの生産コストと収益性を示したものである。米に関しては出所が異なるため一部数字が合致しない点があり、又米の収益性に関する情報はなく、単位重量あたり流動コストと固定コストのみが示されている。

労働力コストの中には、経営農家の家族報酬として月当US\$ 400年間\$ 4,800が計上された。この金額は、メンバー国4ヶ国間の協議で決められたもので一家族が農業生産をすゝめる上で必要な生活資金と見做されるものである。この\$ 4,800の固定コストは、農業収入源としての比重に応じ各作物、家畜別に分割計上されている。

各作物別コストと収益性については、次の事項について説明を必要としている。すなわちここに示される総収益とは、収入と変動コストの差額をいう。収益Ⅰは、総収と固定コストを加えたコスト合計との差を指している。たゞし資本に対する利息は含まれていない。収益Ⅱは、収益Ⅰと資本に対する利息の差を示したものである。収益Ⅱを土地の価額で除したものが、土地の値上り率を示すことになる。この項目の中、総収益は、それぞれの異なる地域と技術システムにおける経済的可能性を示すものである。又、土地価格の上昇は同一地域、技術システムにおける長期的にみた可能性を示すものである。

#### (小 麦)

アルゼンチンにおける小麦の生産コストは、1トン当り、US\$ 90,00前後である。ブラジル産小麦のコストは、1ヘクタール当りの反収が1,500kgの場合、US\$ 245,00/tである。このコストは反収が増加するにつけて減少し、1haあたり2,300Kg収穫の場合でUS\$ 211、2,400Kgによると\$ 207,00に落ちる。反収2,400Kg/haの場合は、パラグアイもブラジルとほぼ同等でUS\$ 203,00/tである。最後にウルグアイで生産される小麦の生産コストは、US\$ 95/tでアルゼンチンに類似している。ブラジルの場合高度の技術により反収を3,380Kg/haに引上げる場合、1トン当りコストは\$ 167,00まで引上げることが出来る。それでもアルゼンチンにおけるコストのほぼ2倍の金額である。

アルゼンチン及びウルグアイにおける小麦の生産コストとブラジル、パラグアイのコストとの間に大きな開きがあるのは、変動コスト中でも生産資材コストの差である。アルゼンチンにおいては、土壌、気象条件が非常に恵まれているため肥料及び農薬の使用量は極めて少量である。この他、アルゼンチンの生産コストを低く押えている他の理由は、機械の賃貸制度が発達していることがあげられる。このこ

とは、ブラジルのコストに大きな比重を占める機械維持費及び機械の減価償却費を大巾に節減するからである。

小麦作におけるパラグアイの生産コストはブラジルに類似したものである。小麦栽培の収益性はアルゼンチンとウルグアイにおいてポジティブであり、ブラジルにおいては高度の技術を用いる場合のみ可能である。アルゼンチンの小麦生産者が受取る価格は、この2年間、ブラジルの生産者が受取る価格のほとんど半分である。又、ブラジルにしる、アルゼンチンにしる、又パラグアイでも小麦価格は生産コストをカバーするに十分なものであった。

メルコスール・メンバー国における小麦の生産コストと収益性比較

US\$/t

国 別 地 域	アルゼンチン				ブラジル					パラグアイ	ウルグアイ
	コルドバ	ブエノス		ブエノス	リオ・グランア・ド・スール州			パラナ州		東部地方	牧場地帯
		北部	西部		北部	南部	プラナルト	プラナルト	プラナルト		
使用技術	旧	新	新	新	旧	旧	新	旧	新		
耕作地域の面積(ha)		122	133	293	35	35	35	87	87	15	78
反収(Kg/ha)	2,000	2,400	2,200	2,100	1,500	2,300	3,380	1,500	2,400	2,000	1,900
消 費											
1) 販売収入	77	77	77	77	140	140	140	140	140	114	126
2) 生産コスト	54	66	59	77	166	153	127	180	162	120	80
2.1) 販売コスト	18	18	29	22	13	13	15	13	13	5	7
2.2) 生産資材	17	11	13	13	101	163	84	112	107	96	49
種子	9	7	5	8	21	14	10	31	19	10	18
農薬	2	4	4	4	23	29	20	27	25	20	1
肥料	0	0	0	0	39	47	48	36	46	26	14
その他	6	0	4	1	18	13	6	18	17	40	16
2.3) 労務費	14	33	12	38	39	27	20	42	31	12	20
機械維持費	5	0	3	0	39	27	20	42	31	12	5
機械賃借費	9	33	9	38	0	0	0	0	0	0	15
2.4) 労賃	2	0	2	0	5	3	2	5	4	0	0
2.5) その他	3	4	3	4	8	7	6	8	7	7	4
3) 純利益	23	11	18	0	-26	-13	13	-40	-22	-6	46
4) 固定コスト	22	21	28	22	45	31	22	45	33	73	14
減価償却費	5	0	2	0	24	16	13	26	21	14	4
施設費	4	2	4	4	6	4	2	4	2	2	1
常備労費	4	9	9	10	13	9	6	12	8	52	4
税金性	9	10	13	8	2	2	1	3	2	5	5
5) コスト計	76	87	87	99	211	184	149	225	195	193	94
(利益を除く)											
6) 純益 A	1	-10	-10	-22	-71	-44	-9	-85	-55	-79	32
7) コスト計	87	90	91	104	244	207	167	248	211	203	95
(利益を含む)											
8) 純益 B	-10	-13	-14	-27	-104	-67	-27	-108	-71	-89	31

出所：ウルグアイ国農牧省 メルコスール生産物の競争力に関する研究

(大豆)

メンバー国4ヶ国間における大豆の生産コストは、小麦にみられるような大きな差異はない。ブラジルにおいては、小農場における旧式な生産システムの場合にコストは上昇する。これは、1農家の労働コストが1月\$ 400として計算され、これが小面積で除されるため単位面積あたりコストが高まるためである。

ブラジルにおける大豆の生産コストは他の3国と比較して高い。このコストの差も又直接コストにもとづくもので、アルゼンチンの場合にコストが低いのは、肥料の使用がほとんど0に近いためである。但し、農薬とくに殺虫剤は、ブラジルよりもやや高い。パラグアイにおける肥料と農薬消費は、ブラジルよりも低い。これはおそらく大豆の栽培が新しい肥沃度の高い土地で行われており、害虫の被害が少ない為であろう。ウルグアイでは、肥料においてブラジルよりも低く、殺虫剤においても高い。

小麦の場合と同様に大豆の場合もアルゼンチンの生産者は、機械を貸借して作業するのが習慣となっている。一部の地域では、整地や植付けは、自己の機械で行っているところもあるが、その他の機械作業とくに収穫の場合は、外部に委ねている。燃料は“その他”の項目の中に含まれるので、燃料、機械維持費及び機械償却費と機械の賃貸料を比較すると、機械を所有するブラジルの生産者よりもアルゼンチンの生産者の方が有利な立場にあることが明らかとされる。

大豆の純利益は、ブラジルの2つのケースを除いてすべてポジティブである。ブラジルの2つのケースの場合も利益率0ではない。したがって短期的にみて大豆作は、小麦よりも可能性をもつ作物ということが出来る。

アルゼンチンにおける大豆の収益性は、小麦に勝っている。このコスト推定は、わずか2年間の価格を対象としたものではあるが、同国における小麦の生産が80年代の500万ヘクタールのまゝ、停滞しているのに対し、大豆の場合は、1980年の2,030千ヘクタールより90年には、4,794千ヘクタールへと100%以上の増加をみせており、大豆作の有利さを証明している。

メルコスール・メンバー国における大豆の生産コストと収益性比較

US\$/t

国 別 地 域	アルゼンチン			ブラジル					ウルグアイ 海岸地方	パラグアイ 東部地方
	ブエノス・アイレス		コルドバ	パラナ州		リオ・グランデ・ド・スール州				
	西部	北部		北西部	北西部	ブラナト	ブラナト	コロニアル		
使用技術	新	新	旧	旧	新	旧	新	旧		
開墾地の面積(ha)	67	212	180	130	130	65	65	4	60	15
反収(kg/ha)	1,800	2,700	2,200	1,900	2,400	1,400	2,000	1,400	1,800	2,200
増 益										
1) 販売収入	157	157	157	170	170	160	160	160	206	139
2) 生産コスト	107	115	87	172	153	155	154	162	140	113
2.1) 販売コスト	31	22	23	13	13	13	13	13	7	5
2.2) 生産資材	45	34	34	106	96	92	98	58	88	75
種 子	13	9	11	17	13	20	16	20	22	9
農 薬	23	25	14	18	12	16	11	0	29	5
肥 料	0	0	0	47	51	36	52	30	18	22
その他	9	0	9	24	20	20	19	8	19	39
2.3) 役員費	22	54	23	40	33	38	31	4	38	8

機械維持費	5	0	6	40	33	38	31	4	12	8
機械賃貸費	17	54	17	0	0	0	0	0	27	0
2.4) 労賃	4	0	3	5	4	5	5	79	0	19
2.5) その他	5	5	4	8	7	7	7	8	7	6
3) 総利益	50	42	70	- 2	17	5	6	- 2	66	26
4) 固定コスト	37	37	35	40	32	54	40	119	23	42
機械賃貸費	5	0	7	25	20	24	19	21	8	14
施肥費	5	3	8	3	2	6	4	24	1	1
常務労費	12	16	6	10	8	21	15	68	4	23
税金他	15	18	15	2	2	3	2	6	10	4
5) コスト計	144	152	123	212	185	209	194	281	164	155
(利益を除く)										
6) 純益 A	13	5	34	- 42	- 15	- 49	- 34	- 121	42	- 16
7) コスト計	151	159	141	232	202	243	220	309	166	160
(利益を含む)										
8) 純益 B	- 7	- 1	16	- 62	- 32	- 83	- 60	- 149	40	- 21

出所：ウルグアイ国農林省、メルコスール生産物の競争力に関する研究

#### (とうもろこし)

次の表は、ブラジルとアルゼンチンにおけるとうもろこしの生産コストを比較したものである。ウルグアイとパラグアイのとうもろこし生産は、メルコスール市場に影響を与えるものではなく、その輸出入量は、僅少である。

ブラジルでは、小型の生産者（リオ・グランデ・ド・スール州コロニアル地方）によるとうもろこし作のコストが非常に高いのが注目される。これは、月間報酬をUS\$ 400として計算されている家族労働費の高さによるものである。たゞし機械化で栽培している企業経営の場合においてもそのコストはアルゼンチンの場合よりも高い。しかしながらブラジルとアルゼンチンにおけるとうもろこし作コストの差は、小麦の場合よりは小さい。

アルゼンチンにおけるとうもろこしの生産コストは、1トン当りUS\$ 86,00からUS\$ 106,00の範囲である。これに対してブラジルの場合は、機械化農業においてもUS\$ 150~160と高くなる。更に高度の技術を用いて反収をあげたとしてもコストを落せるのは、US\$ 127,00程度までであろうといわれている。両国におけるコストの差は、生産資材の使用量によっている。アルゼンチンの生産量は、ほとんど肥料を用いない（用いる必要がない）からである。各地の栽培技術、各地の栽培地において総利益（売上げ高-直接コスト）は、ブエノス・アイレスの南部地方をのぞいてすべて黒字残となっている。総利益が黒字残となっていることは、短期的にみてとうもろこし作の経済的可能性を示すものである。アルゼンチンの場合生産コストは低い、生産者の受取り価格は、ブラジルの場合よりもはるかに低い。

アルゼンチンにおけるとうもろこしの栽培面積は、1989年から90年にかけて1,603千haより、1,926千haへと増加しているが長期的にみると減少傾向にある。1980年当時その栽培面積は、3,394千haであった。

国 別 地 域	アルゼンチン				ブラジル						
	ブエノス・アイレス				パラナ州		リオ・グランデ・ド・スール州			サンタ・カタリーナ州	
	北部	西部	南部	南東部	北西部	北西部	コロニアル	ブラナルト	ブラナルト	西部	西部
使用技術	新	新		新	旧	新	旧	旧	新	旧	新
調査地域の面積(ha)	72	133	102	15	21	21	2.5	34	34	2	4
収収(Kg/ha)	4,500	3,900	3,300	3,200	2,600	4,500	1,700	2,350	3,500	3,100	4,200
指 数											
1) 販売収入	84	84	85	84	110	110	120	120	120	129	129
2) 生産コスト	66	66	83	85	106	91	116	98	92	96	95
2.1) 販売コスト	23	33	27	33	13	13	13	13	13	13	13
2.2) 生産資材	13	18	17	16	49	49	31	56	57	32	40
種 子	9	9	11	10	10	6	13	11	8	8	5
農 薬	4	5	6	6	0	0	0	16	11	0	0
肥 料	0	0	0	0	30	35	14	19	28	21	31
その他	0	4	0	0	9	8	4	10	10	4	4
2.3) 役務費	27	11	35	32	15	9	3	21	16	2	2
機械維持費	0	2	0	0	15	9	3	21	16	2	2
機械賃貸費	27	9	35	32	0	0	0	0	0	0	0
2.4) 労 賃	0	1	0	0	24	15	63	3	2	44	36
2.5) その他	3	3	4	4	5	5	6	5	4	5	4
3) 総利益	18	18	2	-1	4	19	4	22	28	33	34
4) 固定コスト	23	17	14	19	40	24	97	32	22	77	57
機械維持費	0	2	0	0	9	6	16	13	10	11	9
施設費	2	3	3	3	7	4	20	4	2	16	15
常務労賃	10	5	6	10	22	13	56	13	9	46	30
税金等	11	7	5	6	2	1	5	2	1	4	3
5) コスト計	89	83	97	104	146	115	213	130	114	173	152
(利益を除く)											
6) 純 益 A	-5	1	-12	-20	-36	-5	-93	-10	6	-44	-23
7) コスト計	92	86	101	109	166	127	235	150	128	192	168
(利益を含む)											
8) 純 益 B	-8	-2	-16	-25	-56	-17	-115	-30	-8	-63	-39

出所：ウルグアイ国農牧省、メルコスール生産物の競争力に関する研究

(米)

次表はアルゼンチンとブラジル間及び水稲、陸稲の生産コストを比較したものである。ブラジルの水稲生産の中心地リオ・グランデ・ド・スール州における水稲の1ヘクタール当り収量は、ほぼ同等であるが生産コストになるとアルゼンチンに劣っている。

両者におけるコストの差違は、直接コストにおいても又固定コストにおいても見られる。アルゼンチンにおいては灌漑のためのインフラにはより多くの資金を要し、その結果として燃料、機械推移費、機械償却費及び利息等の費用が大きくなる。

これに対してブラジルのパラナ州における陸稲栽培コストは、リオ・グランデ・ド・スール州におけ

る水稲の場合より大きい、アルゼンチンの水稲栽培と比較すると低い。陸稲は単位面積あたり収量が低いので単位重量あたりコストを高いものとなる。

メルコスールにおける米の生産コスト比較

国 別	ブ ラ ジ ル		アルゼンチン
地 方	リオ・グランデ・ド・スール	パ ラ ナ	
種 類	水 稲	陸 稲	水 稲
反 収 (kg/ha)	4.510	1.800	4.500
1 ) 変動コスト	87	106	104
1.1) 販売コスト	7	16	6
1.2) 生産資材	58	73	66
種 子	10	10	10
農 薬	8	11	12
肥 料	14	32	2
燃 料 他	26	20	36
1.3) 役 務 費	11	12	23
機械維持費	11	12	23
1.4) 労 務 費	7	2	7
1.5) そ の 他	2	0	0
1.6) 利息ほか	2	3	2
2 ) 固定コスト	48	45	75
機械償却費	13	16	29
施設改修費	9	3	5
常備労務費	8	8	14
税金ほか	1	1	3
固定資本利息	17	17	24
3 ) コスト 合計	135	151	179

出所：A INTEGRAÇÃO BRASIL— ARGENTINA

#### 共同市場の結成により影響を受ける農作物

ピソウザ大学連邦大学のエコノミストで、農業問題の研究員である MAURO DE REZENDE LOPES 氏による“メルコスールにおける農業政策統合のための優先事項”とし題した論文の中で、統合プロセスによって影響を受ける作物をブラジルの立場よりみて次の通り発表している。

#### 牛乳及びその製品

牛乳の場合、ブラジルは大生産国であるが、年々輸入を必要としており、大型の輸入国になりつつある。ブラジル政府が現在行っている次の政策を続ける場合ブラジルの牛肉部門は、メルコスールの他の

国に比し不利な立場を継続すること、なろう。

- イ) 基礎食品（とくに低所得階層の生活必需品として選ばれた食品、この中に牛乳が含まれている）の物価統制。
- ロ) 粉乳の輸入政策をとらず牛乳の輸入を行う。
- ハ) 何らの基準もなく、価格についても標準基準を設けず無計画な輸入の発表。
- ニ) 輸出に際して付加価値に対する税を免除しているアルゼンチンに対応するため、生産資材に対する税を含め、牛乳に関連する税の免除を行わない場合。

アルゼンチンにおいては、1986年9月11日付法第23.359号により乳牛生産振興基金（FOPAL）が設置されている。この法律により牛乳政策統轄委員会が設置されており、牛乳部門の振興と開発のための提案が行われている。ブラジルこそこの種の対応を必要とするところであるが、何らの政策措置もなく、長期にわたる厳しい価格政策のあとも極めて不安定な状況が続いている。

ブラジルの牛乳生産に対するアルゼンチンの比率は、17.5%である。ブラジルの国産品の中39.4%は、農場自体での消費30.4%が協同組合や配給会社を通じた一般消費となっている。輸送コストがかさむため国境に近い国内の生産州では、競争力に勝るアルゼンチン産品におびやかされる度合いは少ないが、競争圏内にあることに変わりはない。

国産牛乳の15%は、粉乳工場に廻され、1.8%がチーズ用、0.5%が菓子やヨーグルトに向けられている。

粉乳については、少量ではあるが附加価値の高い商品であるため、輸入政策や、価格の調整に不備がある場合、国内の粉乳部門にとっては致命傷となり得る部門である。とくにこの分野に大型の投資を行っている協同組合（サンタ・カタリーナの農協等）や工場において然りである。ブラジルは、粉乳やバターの恒常的輸入国ではなく季節的に輸入を必要としているが、この季節的輸入が恒常的な輸入国の印象を与えている。

牛乳部門については、特別の政策による統合への準備はまだまだ行われていない。この部門は、過去40年間にわたって国内価格の統制という問題に直面し続け、今は又外国の補助やタンピングという新しい問題におびやかされている部門である。輸入を必要としているのも競争力の弱さというより、価格コントロールの政策にもとづくところが大きい。

メルコスール市場における競争相手国に対しブラジルの農業政策は、牛乳部門を非常に不利な立場に立たせてきた。この現状を改善し外国への競争力をつけるためには、政府の何等の干渉もない価格の完全な自由化が求められる。少なくとも外国の競争国を有利とするような国内政策は、廃除されるべきであろう。

とくに牛乳に関し、ブラジルの生産者を阻害する問題は、政府が生産者保護のメカニズムを放置していることにある。大型の輸入が発生するのはまさにこのためであり、外国品の流入により多くの協同組合が極度の資金難に陥っている状況にある。

#### （牛 肉）

牛肉についてみるとアルゼンチンにおける販売は、牛肉管理庁（JUNTA NACIONAL DE CARNE～1978年法律第21.740によって設置）によって規制されてきた。同管理庁は、部門の振興資金として国内市場における第1回目の販売に際し、売上高の1%を撤税している。牛肉に関する租税は、販売利益に対して



15.6%である。これに対するブラジルの税金（ICMS商品流通サービス税）は、17%と高い。

ブラジルの場合、商品流通税が高率のため、非合法的な屠殺による脱税行為が盛んに行われているが、密屠殺は、当局の衛生検査をも回遅するため衛生上の問題解決が遅れる結果を招いている。適切な衛生検査の不足は、市場統合への大きな障害となる。高率の税金がブラジルの肉類輸出にとって一つの障害となっているが加工牛肉では、大型の輸出国として世界の重要な市場に供給しており、アルゼンチンと共に世界市場の70%を占めている現状から、メルコスール市場における協定とくにコンビーフの輸出に関する協定が必要となろう。

#### （にんにく及び玉ねぎ）

にんにく及び玉ねぎ部門においてブラジル製品の競争能力を低下させている最大の要因は、価格及び輸入コントロール政策の不在であろう。国内市場価格が上ると必ず政府内にパニックが起り、輸入が許可され国内市場を混乱に陥し入れることの連続であった。最近の例としては、1991年に南部地方の収穫最中にメルコスール以外の国を含め関税免除で玉ねぎの輸入が許可されたことがあった。無税で輸入された外国品は、国内生産物と共に市場に流入し、供給はたちまち過剰となって国内の玉ねぎ生産者は、多大の被害を蒙ることとなった。

玉ねぎは、典型的な季節的商品であり、腐敗の早い商品であるところから他の一部の国で採用されているように季節別の輸入税を設定すべき性格のものといえる。

ブラジル向け最大の輸出国は、アルゼンチンで、ブラジル輸入品の60%は、同国産品によって占められてきた。91年には、チリーよりの輸入も許可されており、市場を更に混乱させている。

玉ねぎ販売にかゝわる租税としては、ICMS（商品流通サービス税）のほかFUNFURAL（農村労働者保障基金）2.5%、運賃にかゝわる税13.6%が加算される。この2つの税は、卸市場価格に対し3.8%、生産者価格に対し4.6%を占めることになる。この税金は、輸入品に対しても課税されるがその率は、卸価格に対し3.1%である。国産品と輸入品に対する課税率の差がアルゼンチンよりの輸入品をして有利な立場をとらせている。

玉ねぎの場合における統合の問題は、伝統的な生産者として他の作物への切換え、他地域への移動を余儀なくしよう。南部地方の生産者は、土地問題（土地のコスト）規模の不足（リオ・グランデ・ド・スール州における玉ねぎ栽培は、最大限1ヘクタールまでの規模で行われている）生産者協同組合の不在、最低限のインフラの不足、これらにまして技術や指導の不足によって困難に直面すること、なろう。このような社会的、技術的条件が共同市場に適合するための最大の社会コストとなる。高度の技術を用いている生産者は、それ程大きな影響は受けないが、これらの生産者にしても高い技術コスト、税金、対外融資への依存などの問題点がある。ブラジルの生産者に対する特別の措置が構じられない限り、共同市場の開設により問題が深刻化することは確かであろう。

#### （大豆）

メルコスール市場におけるブラジルの最大の競争相手はアルゼンチンである。パラグアイの大豆生産も近年急激な拡大をみているが、世界的規模にあるブラジルとアルゼンチンの競争相手となる量ではなく、共同市場の生産総量を補完する程度のものでしかない。パラグアイでは、現在ブラジルの企業による搾油工場が建設されている。又ウルグアイにおける大豆生産は、国内消費を賄う程度のもので非常